13. 手洗器キャビネット・カウンター・幕板

使用部材

詰め合わせ箱（手洗器キャビネット用）

付属材セット（手洗器）

【ベッセルタイプ（丸形/角形）】

アングル（2個）
- トラスタッピンねじ 4×12(4本)
- トラスタッピンねじ 4×50(4本)

【ハイバックタイプ】

アングル（2個）
- トラスタッピンねじ 4×12(2本)
- トラスタッピンねじ4×50(8本) ※残り4本は 14.手洗器･水栓金具で使用

紙巻器

【樹脂製】※ねじセットの番号は各袋に記載の番号です。

紙巻器本体（1個）
- コーナースペーサー（2個）
- ねじセット①
  - なべタッピンねじ 4.5×40(4本)
  - 平座金（4個）
- ねじセット④
  - トラスタッピンねじ 4×14(4本)

紙巻器固定材 ※メタル製紙巻器の場合

紙巻器固定材（1個）
- 皿タッピンねじ 4×40(2本)
- 皿タッピンねじ 4×16(2本)

その他包装

カウンター

上段カウンター

【ベッセルタイプ（丸形）/（角形）】
【ハイバックタイプ】

（1本）

※図はベッセルタイプ（角形）

ブラケットセット

ブラケット（3個）※
- なべワッシャー タッピンねじ 4×16(9本)
- トラス タッピンねじ 4×30(6本)

※1個は余り、設置寸法により使用する個数が異なります。

下段カウンター

（1本）

幕板

（1本）

横さん

【ベッセルタイプ】
【ハイバックタイプ】

上段横さん（1本）

※図はベッセルタイプ

下段横さん（化粧なし）（1本）
- 皿タッピンねじ 4×40(4本)

ねじセット
- 皿タッピンねじ 4×40(1本)
- 低頭タッピンねじ 4.5×50キャップ付 (8本)

ブラケットセット

ブラケット（3個）
- なべワッシャー タッピンねじ 4×16(6本)
- トラス タッピンねじ 4×20(6本)

付属材セット
- 取付材（4個）
- アングル（7個）
- トラス タッピンねじ 4×10(22本)

キャップセット

【上段カウンター】
- キャップ（上段カウンター）（1個）
- トラスタッピンねじ 4×10(1本)

【下段カウンター】
- キャップ（下段カウンター）（1個）
- トラスタッピンねじ 4×10(1本)

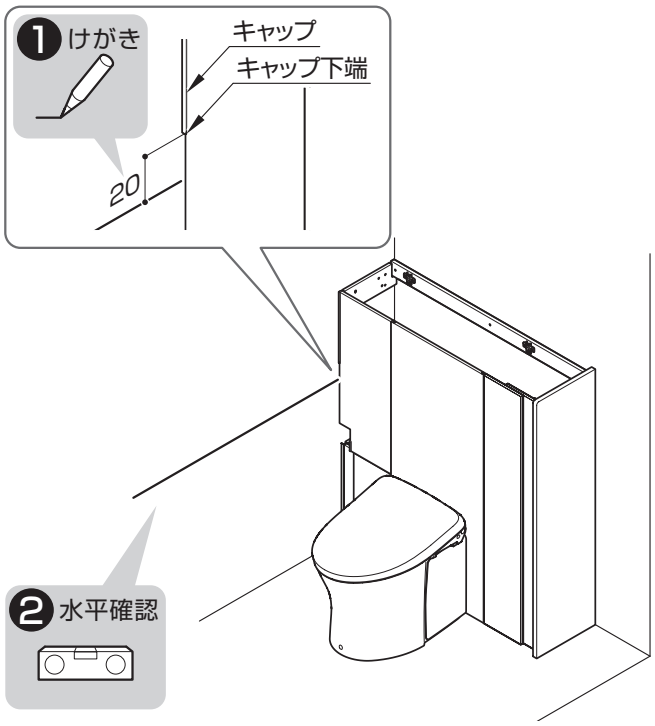
【上段横さん】
- キャップ（上段横さん）（1個）
- なべワッシャー タッピンねじ 3×6(2本)

【幕板】
- キャップ（幕板）（1個）
- スペーサー t=0.5(4個)
- トラスタッピンねじ 4×10(2本)

手洗器キャビネット

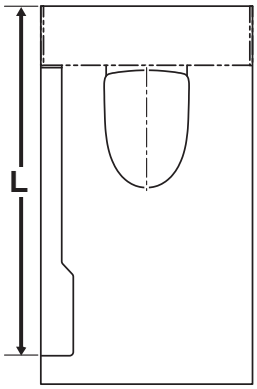
（1台）

1 上段横さんのけがき



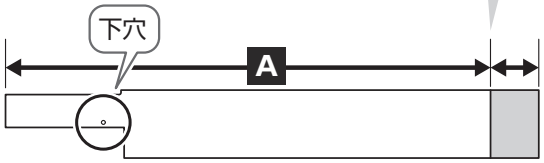
2 上段横さんのカット

❶ L寸法をレイアウト図より確認する



❷けがき

奥行寸法L		規定寸法				けがき寸法A
	−	ベッセルタイプ（丸形/角形）	296		=	
		ハイバックタイプ	298			



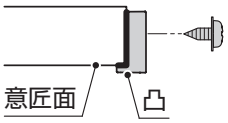
❸カット

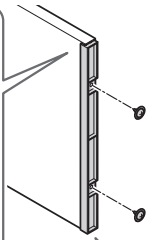
・意匠面（下穴があいている面）からカットすること
・上段横さんのカットは板に対して必ず垂直になるようにすること

割れ防止/すき間発生防止

❹ 意匠面にキャップ（上段横さん）の凸側を突き当てる

【上面図】





❺ 下端をあわせる

❻ 手締めで

なべワッシャータッピンねじ 3×6（2本）

3 上段横さんの取り付け

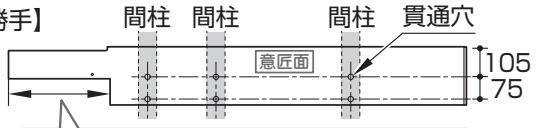
壁裏補強なしの場合

❶-❶ 貫通穴 φ5

間柱にあわせて意匠面から貫通穴をあける
※右勝手の場合、左右反転した寸法となります。

施工不良防止

【左勝手】

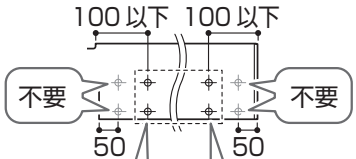


この箇所は間柱がある場合でも下穴はあけない

❶-❷ 貫通穴 φ5

追加で意匠面から貫通穴をあける

施工不良防止

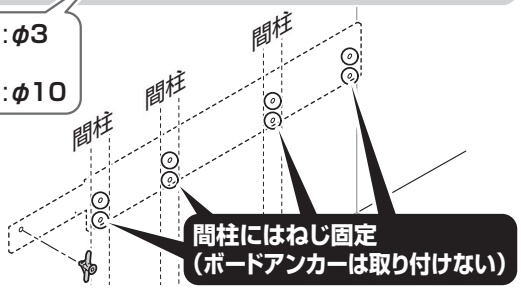


❶-❶ であけた穴が端部から100mm以下の場合、端から50mmの貫通穴は不要

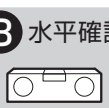
【左勝手】

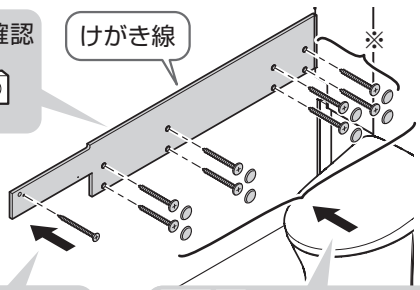
❷ けがき → 下穴 → ボードアンカー（オプション）

ねじ取付用：φ3
両端ボード
アンカー用：φ10



❸ 水平確認





❺ 手締めで

皿タッピンねじ 4×40（1本）

❹ 低頭タッピンねじ 4.5×50キャップ付

※カウンターの長さ、間柱数によって、使用するねじの数が異なります。
※ボードアンカー取付部は手締め

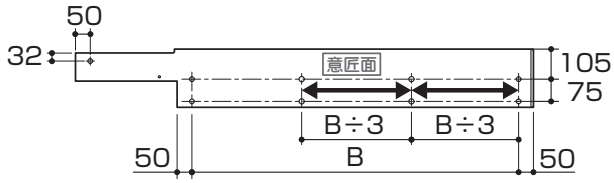
壁裏補強ありの場合

❶ 貫通穴 φ5（9カ所）

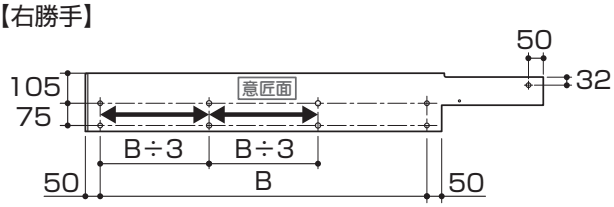
意匠面からあける

施工不良防止

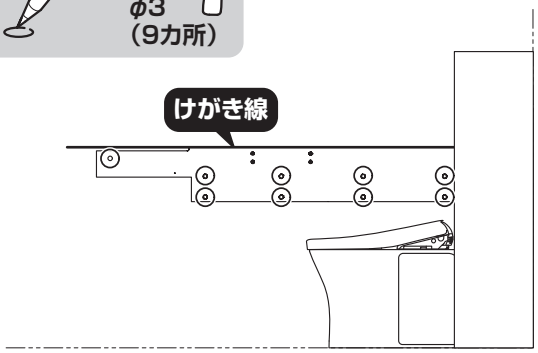
【左勝手】



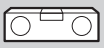
【右勝手】

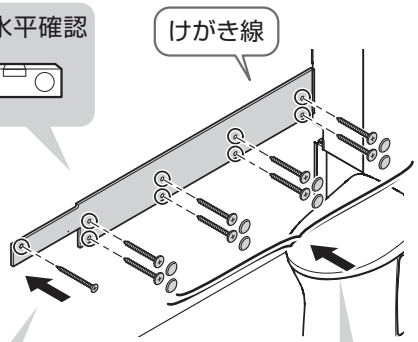


❷ けがき → 下穴 φ3（9カ所）



❸ 水平確認



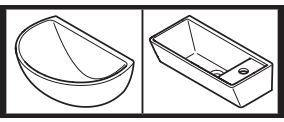


❺ 皿タッピンねじ 4×40（1本）

❹ 低頭タッピンねじ 4.5×50キャップ付（8本）

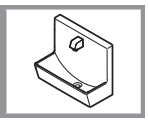
手洗器タイプにより取付手順が異なります、各手順へ進んでください

ベッセルタイプ



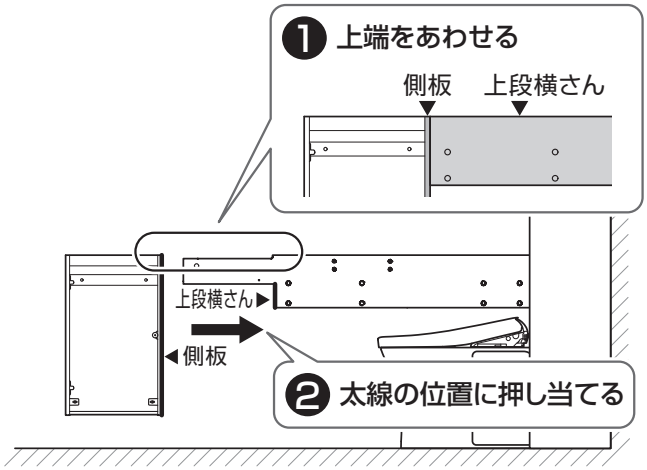
4 手洗器キャビネットの取り付け へ

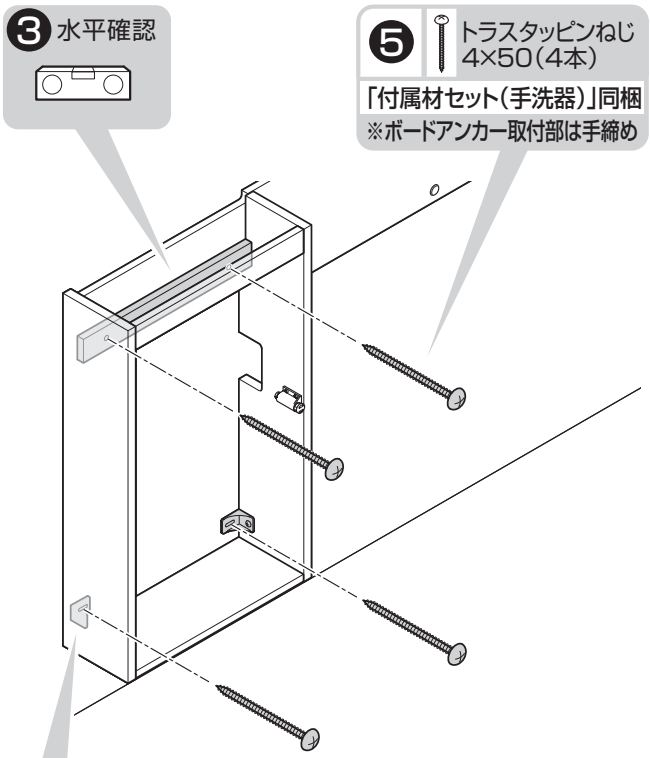
ハイバックタイプ



P.63へ

4 手洗器キャビネットの取り付け



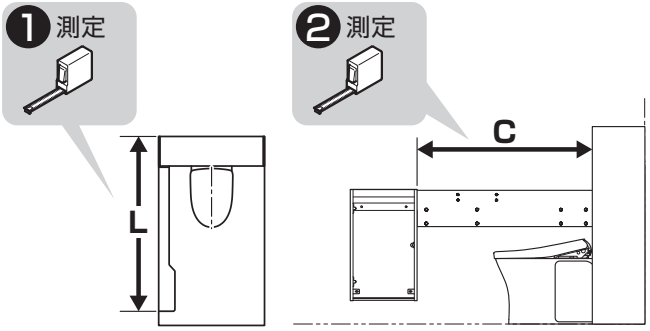


❹ ※【壁裏補強なしの場合（下2カ所）】

設置壁にけがき → 下穴※ （φ3）

設置壁にけがき → 下穴 → ボードアンカー（オプション） （φ10）

5 カウンター類のカット

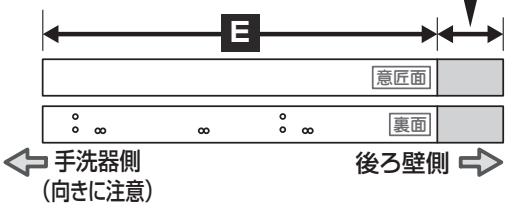


❸ けがき

奥行寸法C	−	規定寸法	=	けがき寸法E
		4		

【下段カウンター】

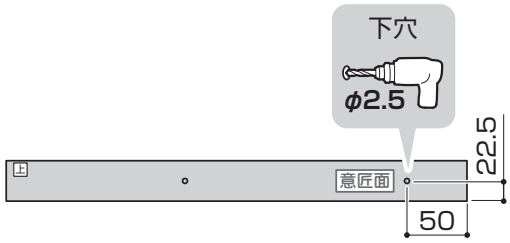
❹ カット
・意匠面からカットすること
・カット面は滑らかに仕上げること
割れ防止/けが防止



【下段横さん】

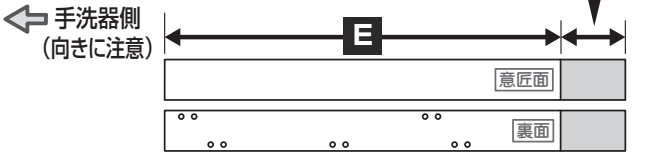
❺ カット
カット面は滑らかに仕上げること
割れ防止/けが防止

E寸法が～720mmの場合



【幕板】

❻ カット
・意匠面からカットすること
・カット面は滑らかに仕上げること
割れ防止/けが防止

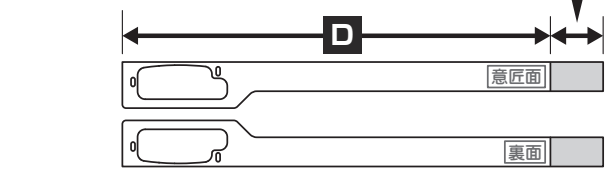


❼ けがき

奥行寸法L	−	規定寸法	=	けがき寸法D
		274		

【上段カウンター】

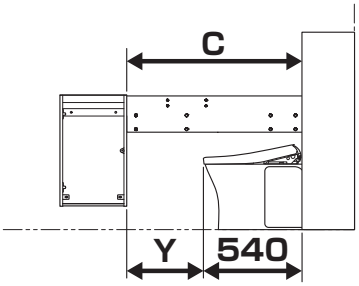
❽ カット
・意匠面からカットすること
・カット面は滑らかに仕上げること
割れ防止/けが防止



手洗器側
（向きに注意）

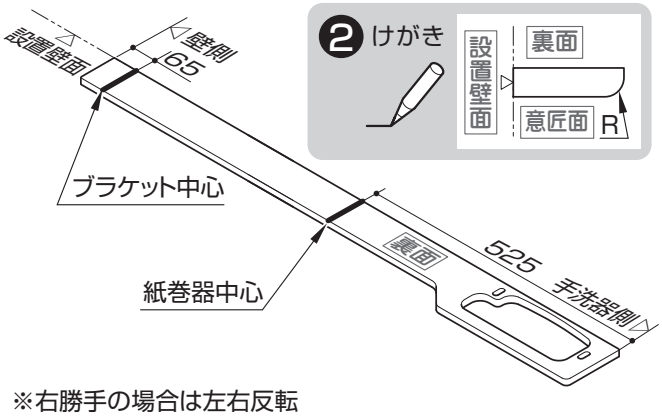
6 上段カウンター部材のけがき

❶ 測定



C寸法	−	規定寸法	=	Y寸法
		540		

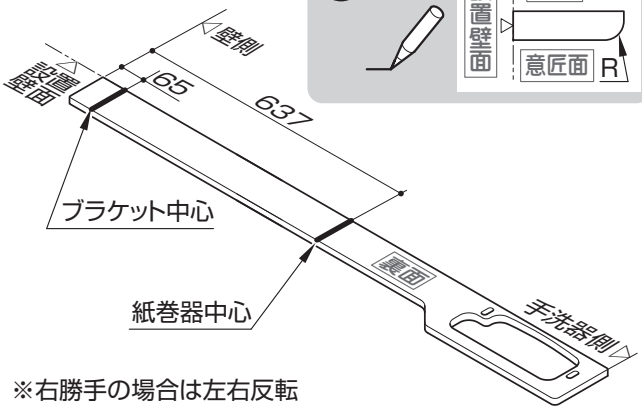
Y寸法が～290mmの場合



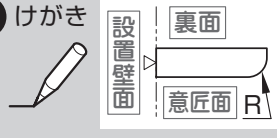
❷ けがき

※右勝手の場合は左右反転

Y寸法が291mm～の場合



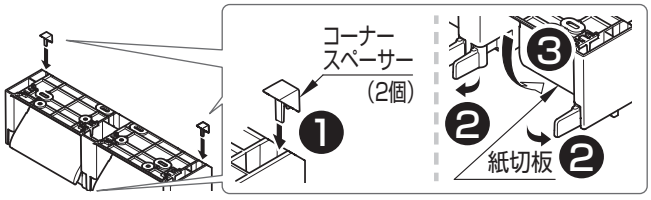
❷ けがき

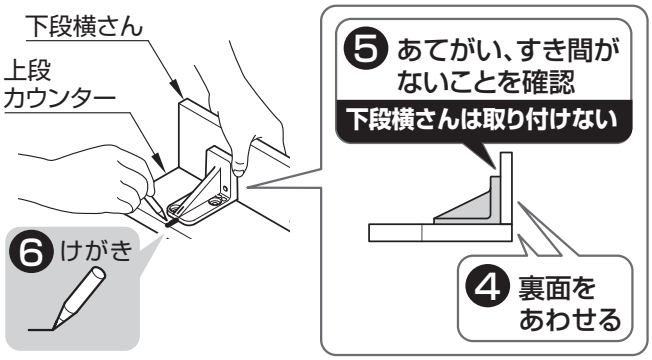


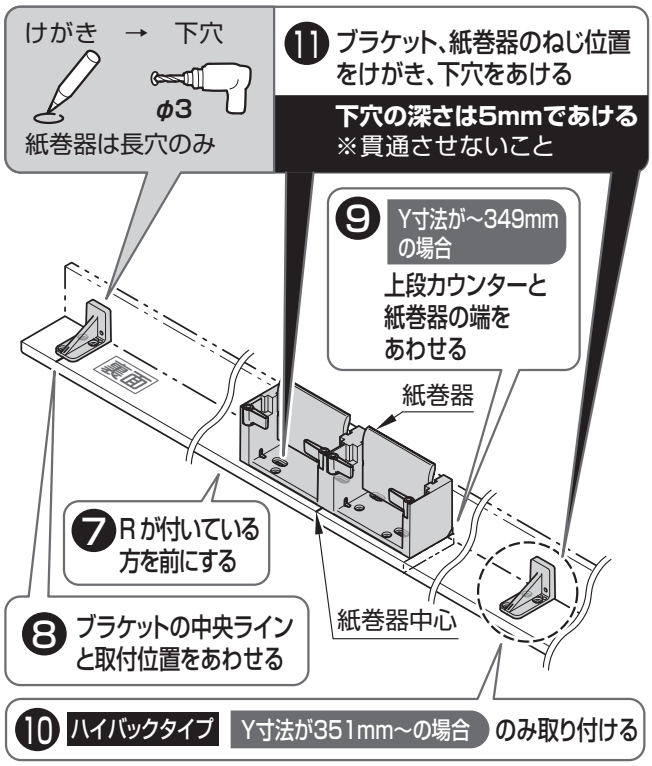
※右勝手の場合は左右反転

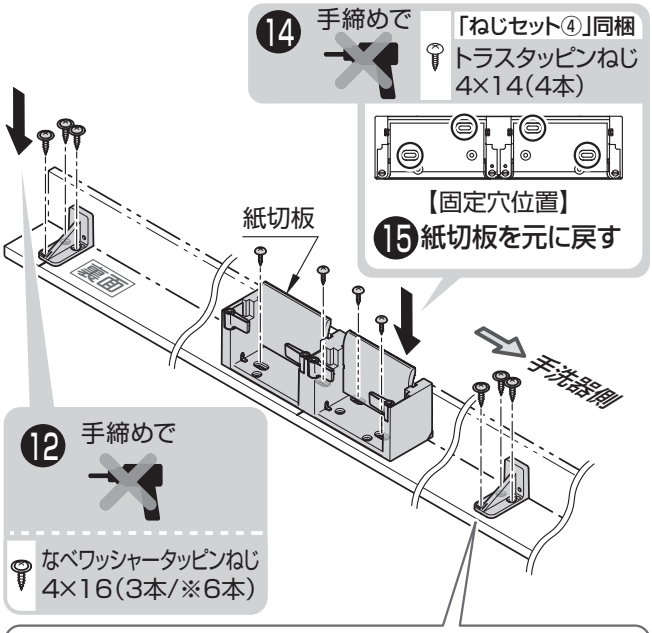
7 紙巻器・ブラケットの取り付け

樹脂製紙巻器の場合



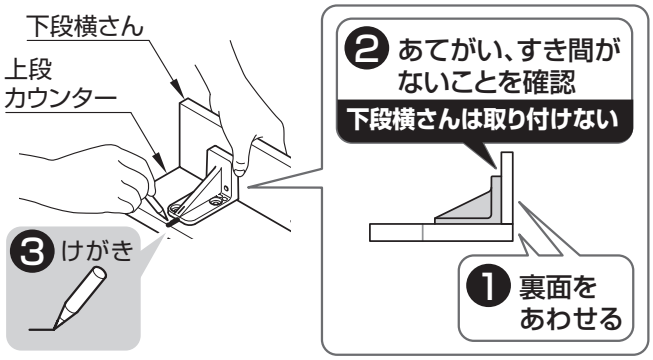


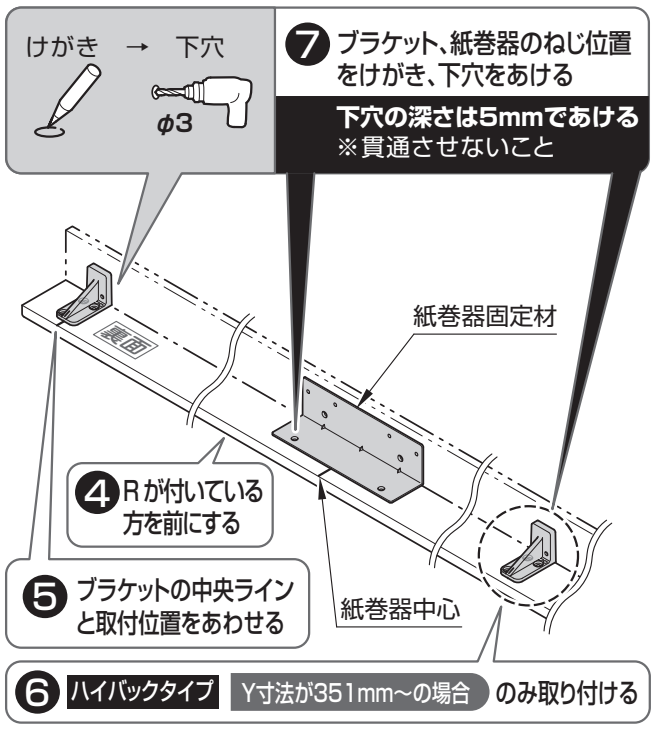


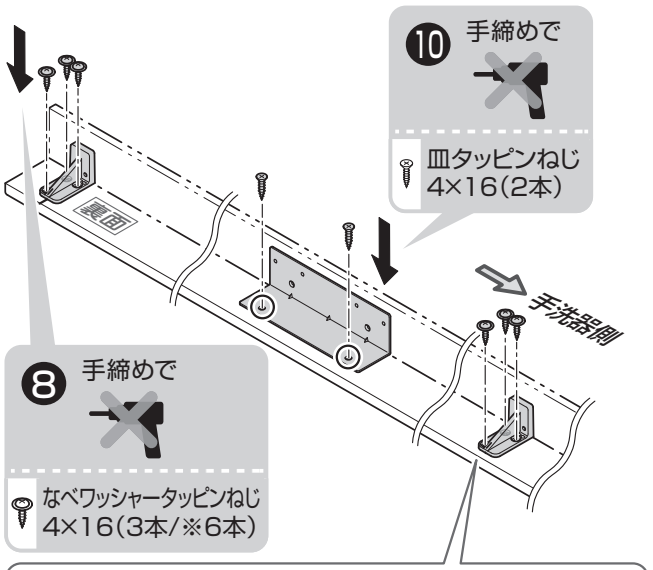


メタル製紙巻器の場合

※紙巻器の取り付けは、「18. 仕上げ」にて行います。
（▶P.97）







8 上段カウンターの取り付け

❶ 上部に切り欠きがないものを取り付ける

切り欠きなし ○

切り欠きあり ×

カット面　ピッタリ

けが防止

❷ 手締めで

仮固定

トラスタッピンねじ 4×10（1本）

キャップ（上段カウンター）

❹ 手締めで

「付属材セット（手洗器）」同梱

トラスタッピンねじ 4×12（各1本）

アングル

側板

❸ アングルの長辺の丸穴を側板の下穴にあわせる

❺ 上段横さんに載せる

上段カウンター

5

❻ ねじ穴のけがき → 下穴

φ3

平座金

❼ トラスタッピンねじ 4×30（2本）

❽

【樹脂製紙巻器の場合】

「ねじセット①」同梱

なべタッピンねじ 4.5×40（4本）

【メタル製紙巻器の場合】

皿タッピンねじ 4×40（2本）

❾ 手締めで

トラスタッピンねじ 4×12（2本）

「付属材セット（手洗器）」同梱

❿ 固定扉に当てる

固定扉側

キャップ（上段カウンター）

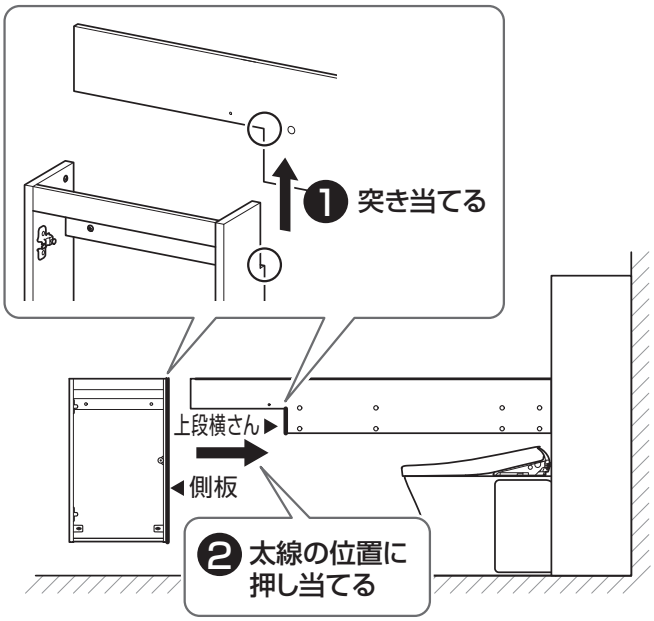
⓫ 手締めで

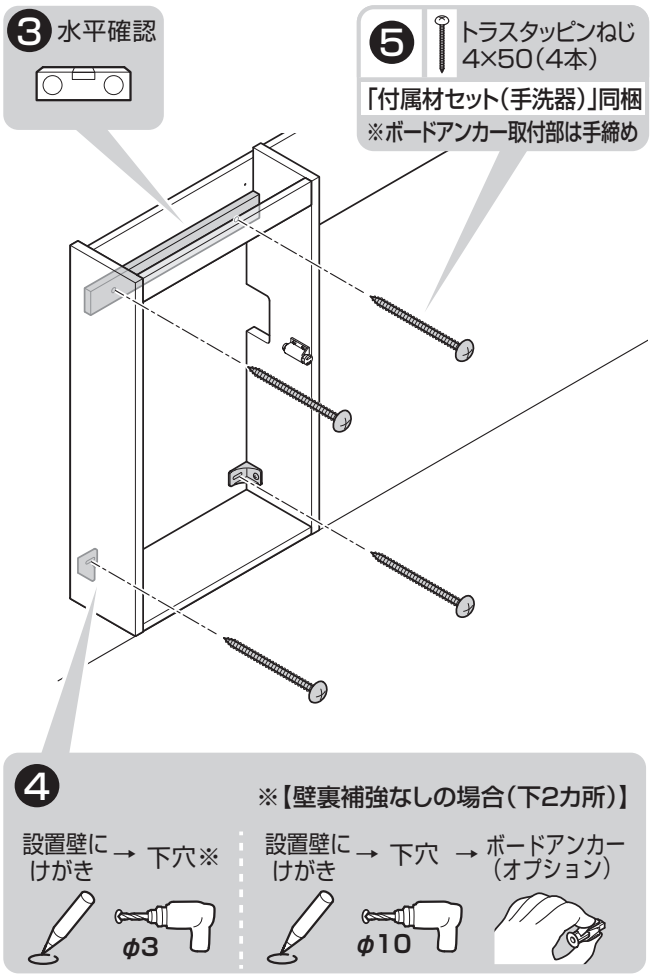
本固定

手洗器タイプにより取付手順が異なります、各手順へ進んでください

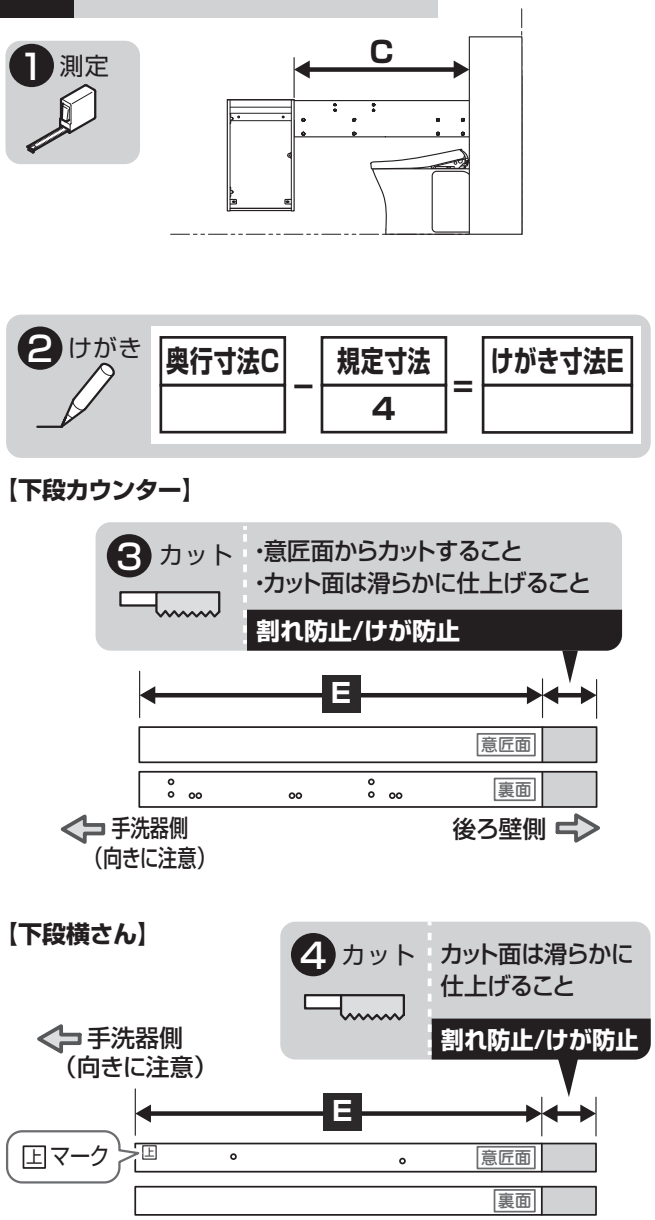
ベッセルタイプ	ハイバックタイプ
P.67へ	4 手洗器キャビネットの取り付け へ

4 手洗器キャビネットの取り付け

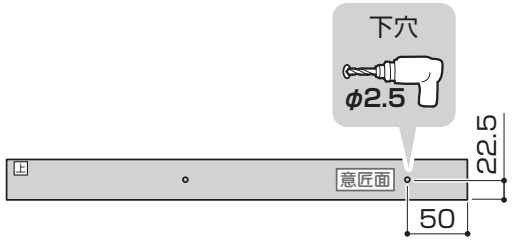




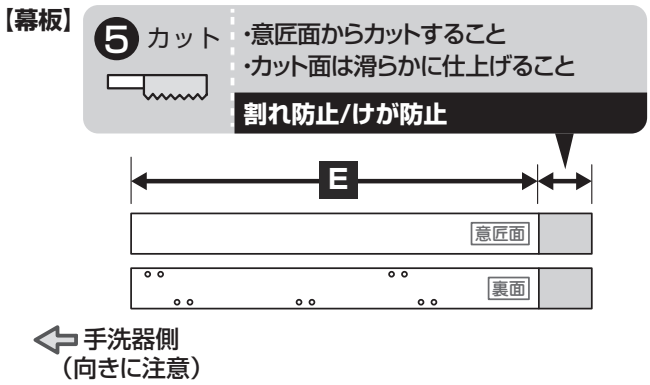
5 カウンター類のカット



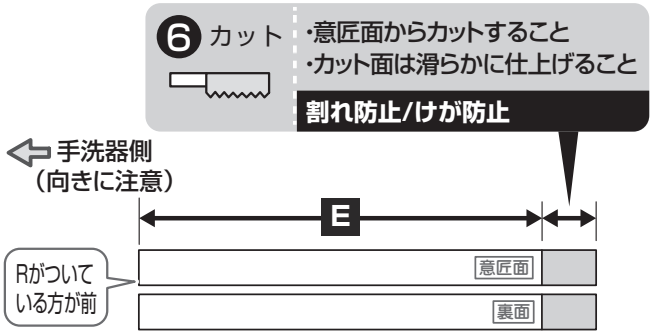
E寸法が～720mmの場合



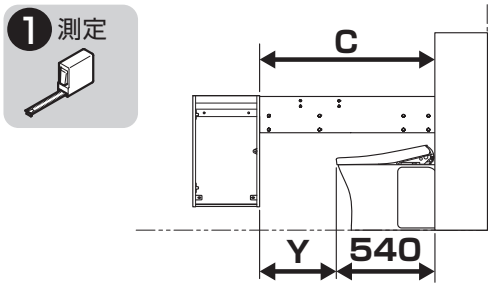
【幕板】



【上段カウンター】

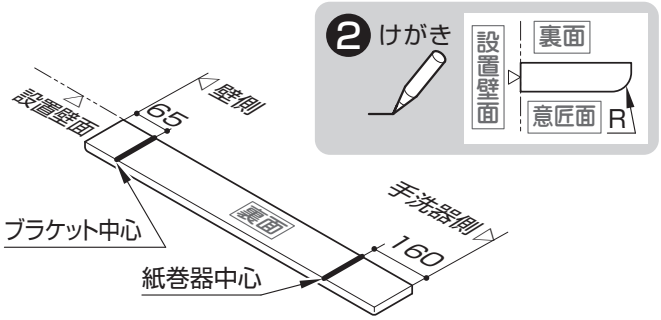


6 上段カウンター部材のけがき



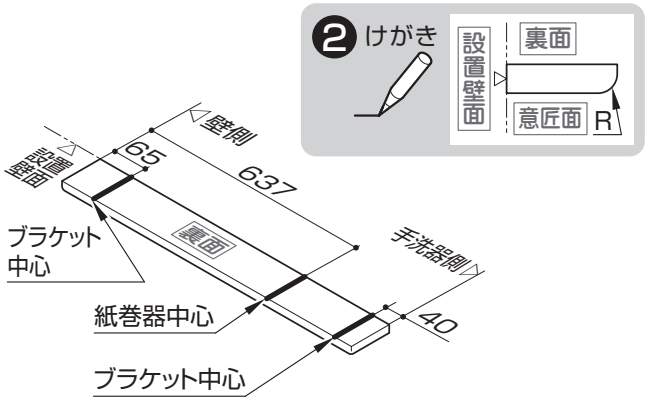
C寸法	−	規定寸法	=	Y寸法
		540		

Y寸法が～350mmの場合



※右勝手の場合は左右反転

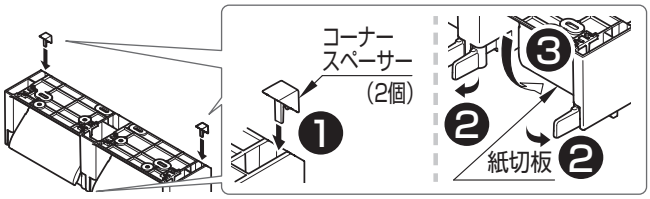
Y寸法が351mm～の場合

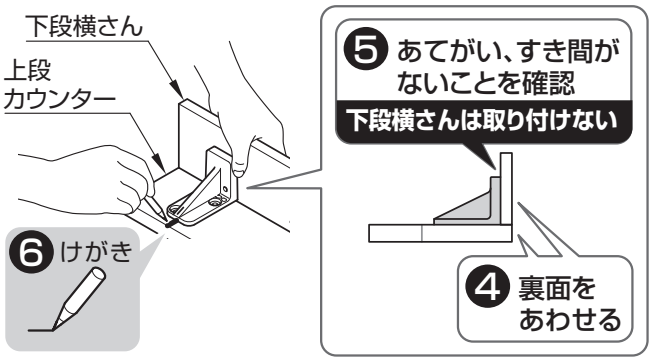


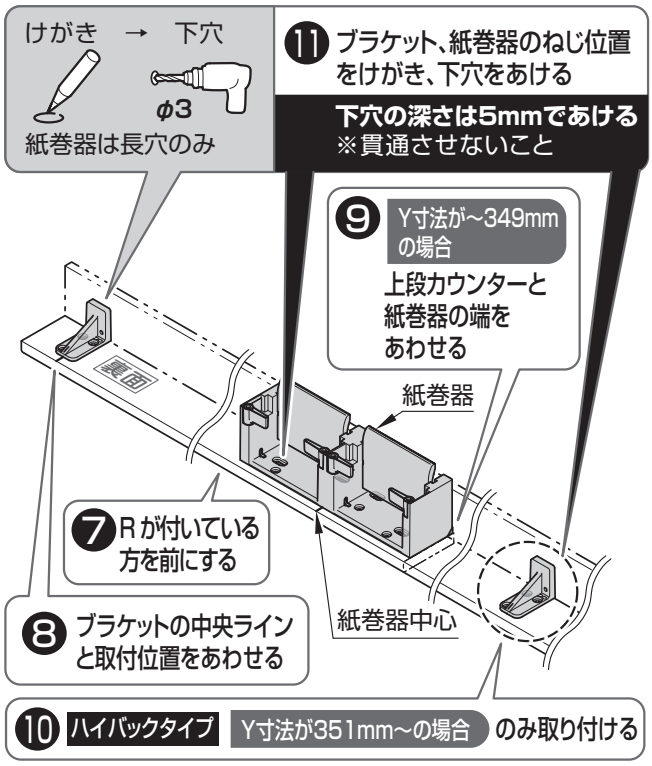
※右勝手の場合は左右反転

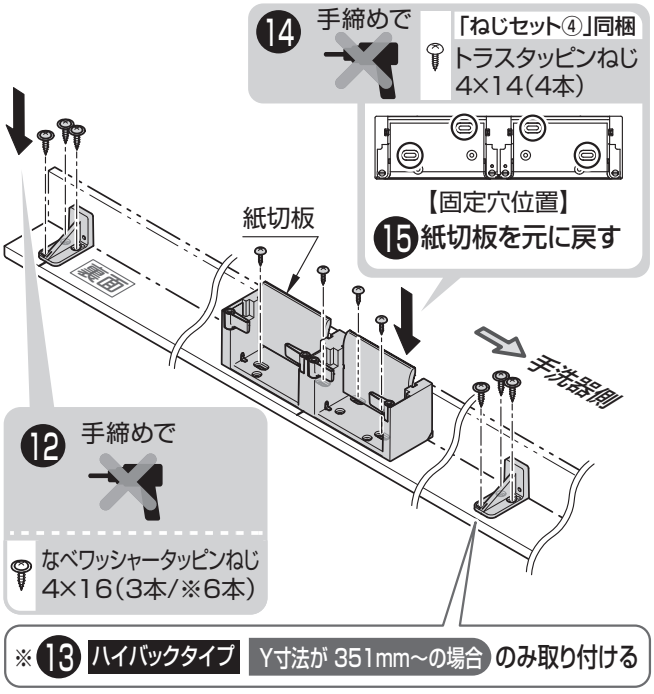
7 紙巻器・ブラケットの取り付け

樹脂製紙巻器の場合



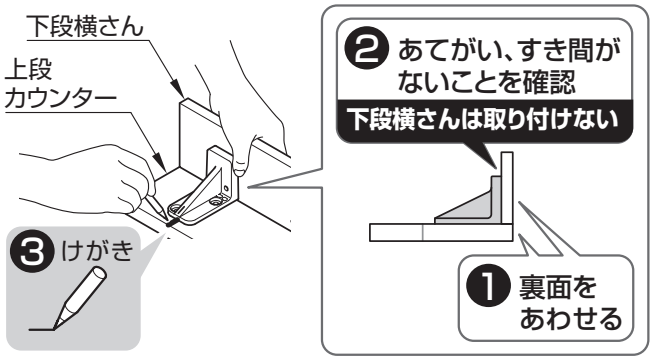


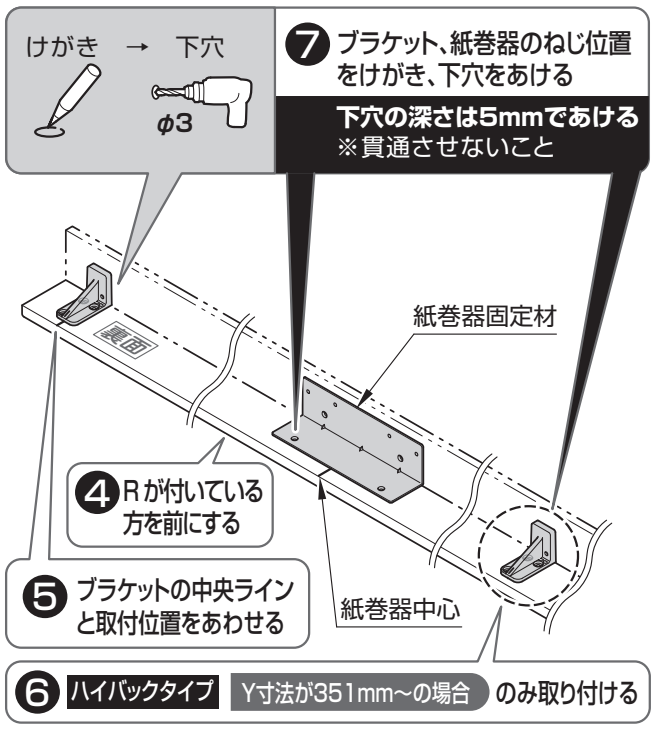


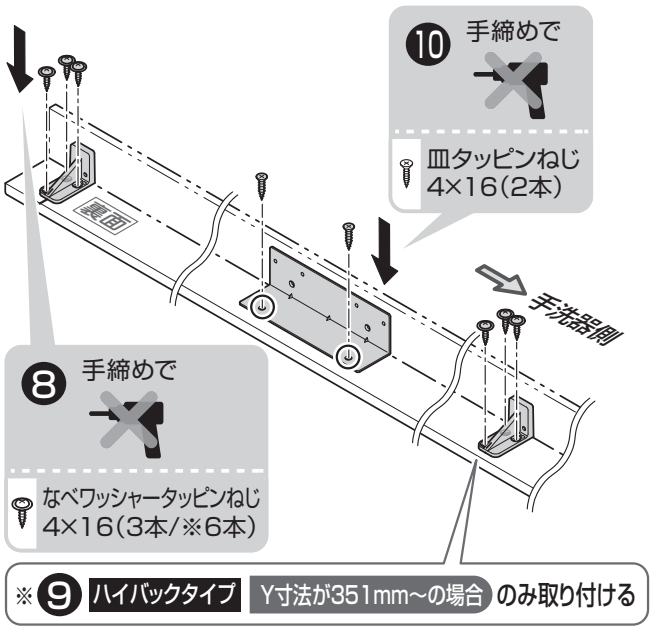


メタル製紙巻器の場合

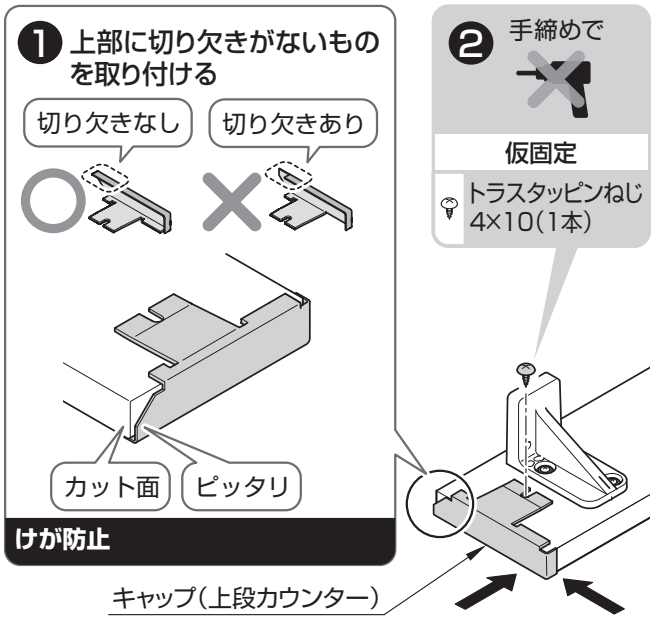
※紙巻器の取り付けは、「18. 仕上げ」にて行います。
（▶P.97）

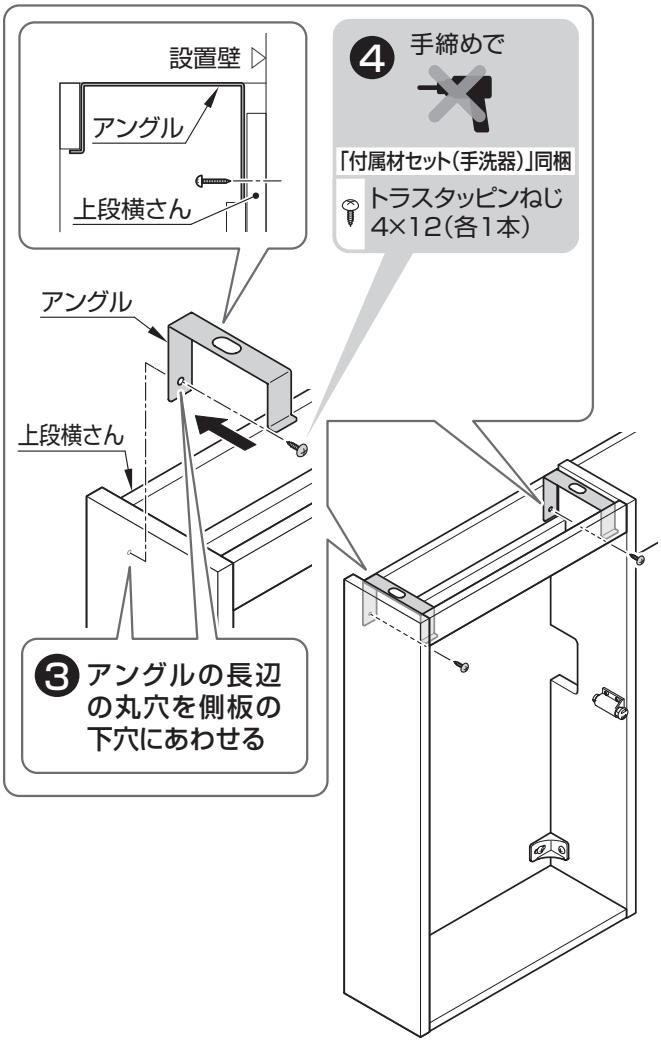


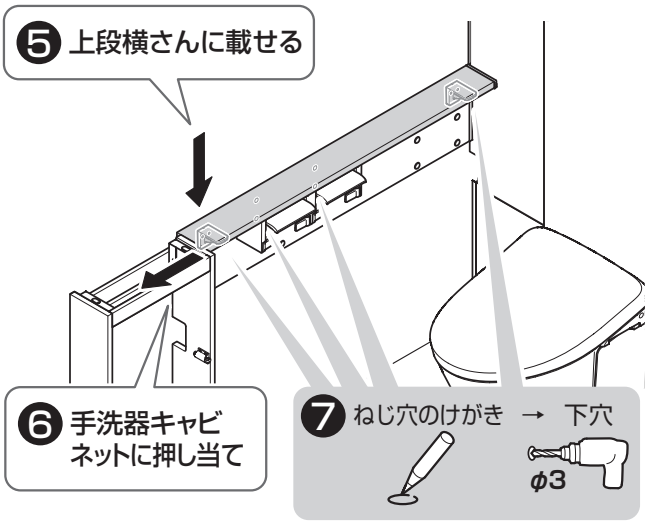


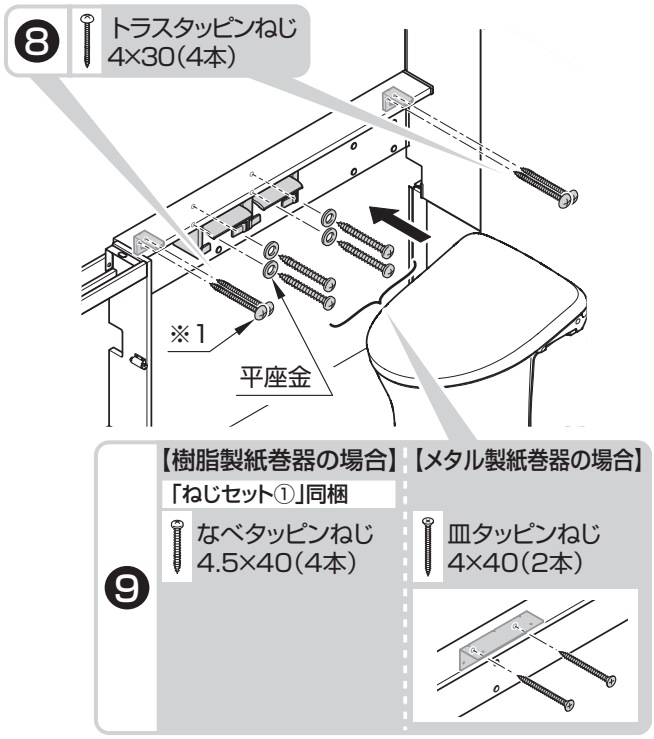


8 上段カウンターの取り付け

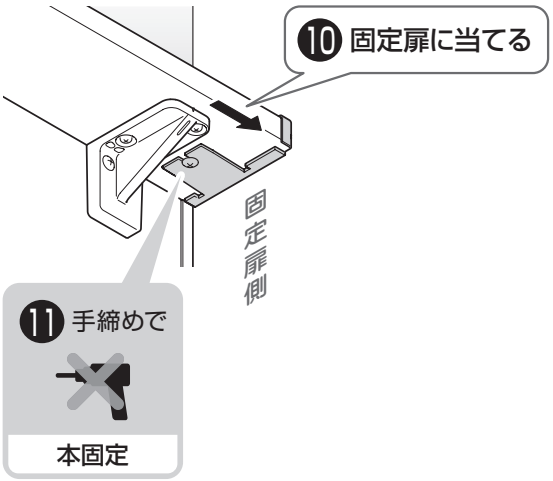




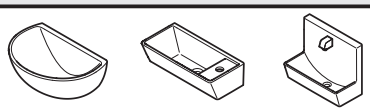




※1 Y寸法が～350mmの場合は手洗器側のブラケットなし

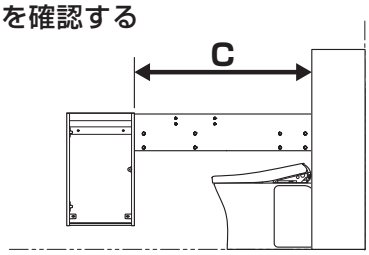


これより先は各手洗器タイプ共通手順となります

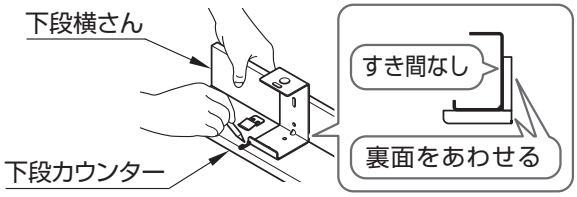


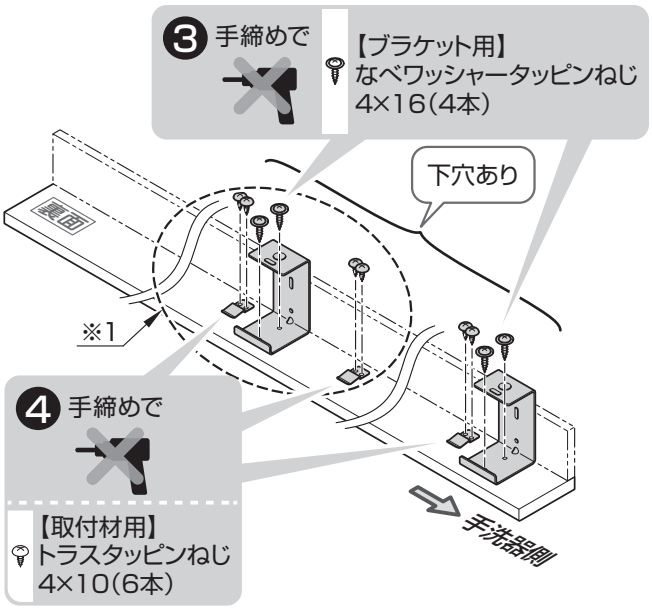
9 下段カウンター部材の取り付け

❶ C寸法を確認する



② ブラケットの裏面に下段横さんをあてがう

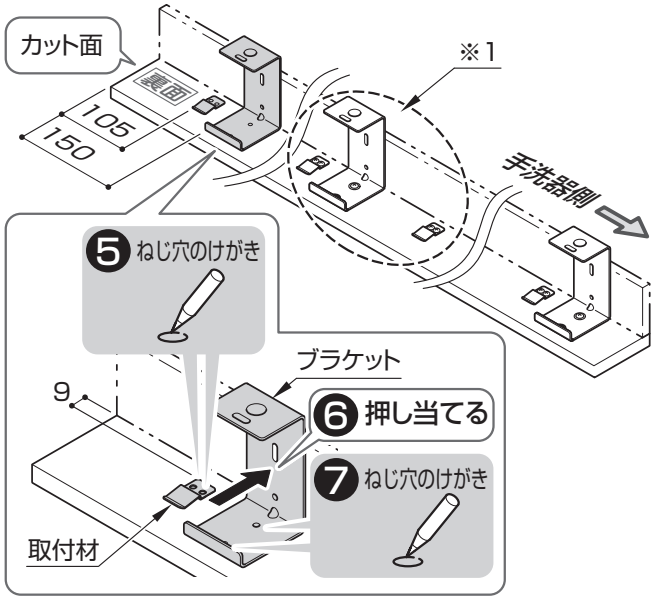


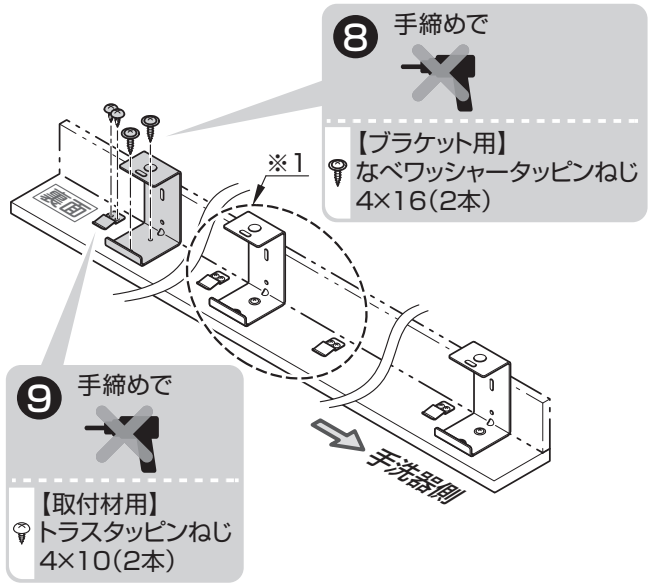


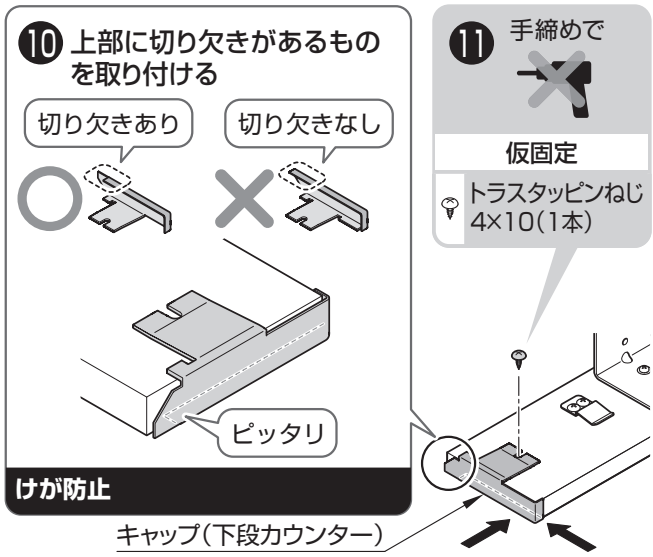
※1 C寸法が 765mm ～ の場合のみ

C寸法が～764mmまたは921mm～の場合

※1 C寸法が765mm～の場合のみ

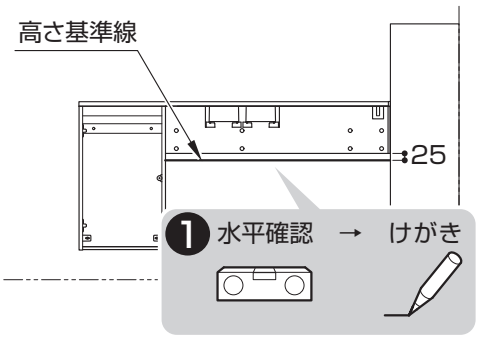




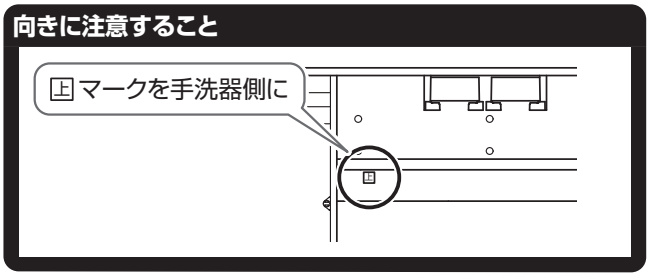


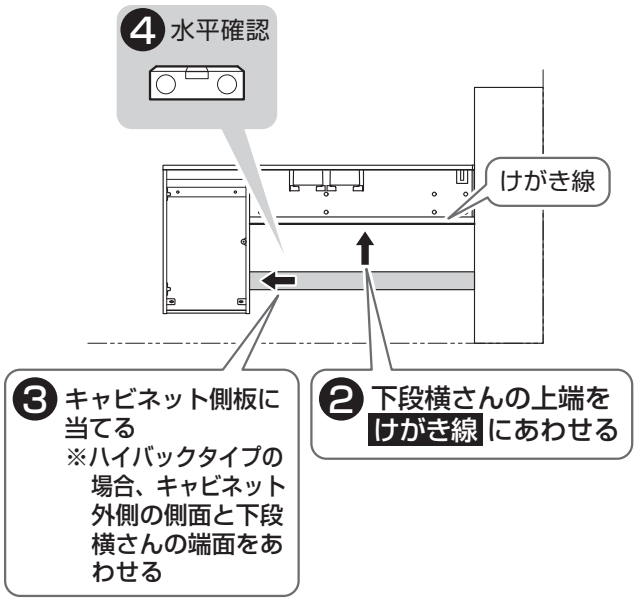
10 下段横さんの取り付け

※図はベッセルタイプ（丸形/角形）の場合



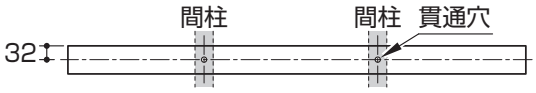
向きに注意すること



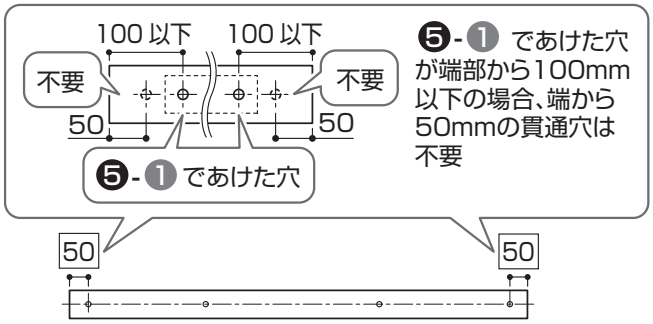


壁裏補強なしの場合

❺-❶
貫通穴（壁にあけない） φ5
間柱にあわせる

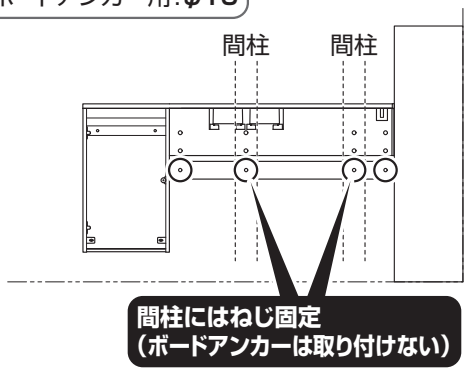


❺-❷
貫通穴（壁にあけない） φ5
追加で貫通穴をあける



❻ けがき → 下穴 → ボードアンカー(オプション)

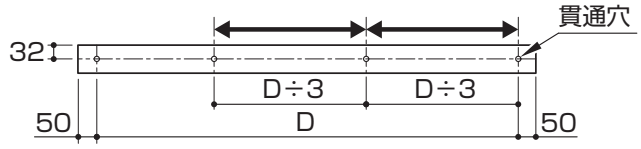
ねじ取付用：φ3
両端ボードアンカー用：φ10



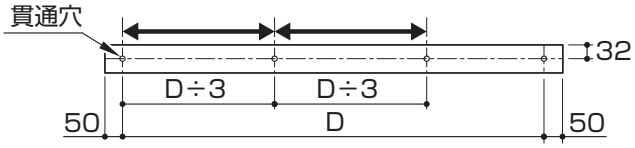
壁裏補強ありの場合

❺ 貫通穴（壁にあけない）
φ5（4カ所）

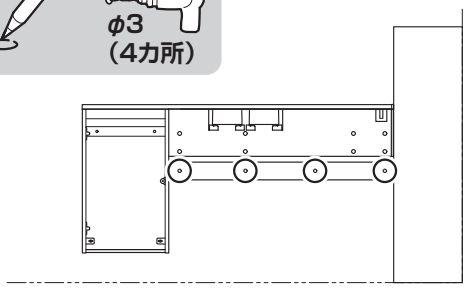
【左勝手】



【右勝手】

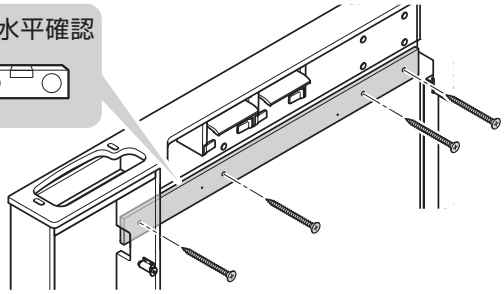


❻ けがき → 下穴
φ3（4カ所）



壁裏補強なし/壁裏補強あり　共通

❼ 水平確認



❽ 皿タッピンねじ 4×40

※ボードアンカー取付部は手締め

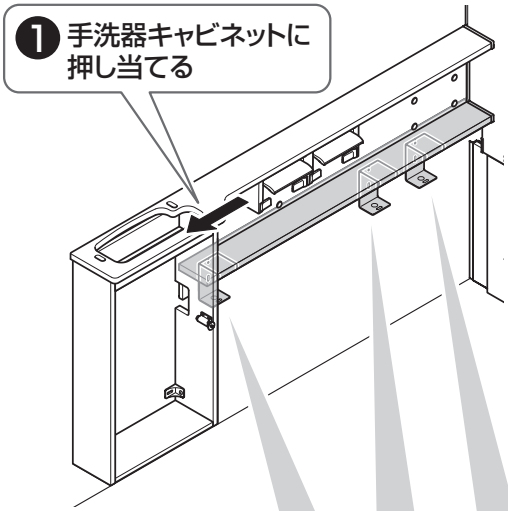
【壁裏補強ありの場合】4本

【壁裏補強なしの場合】カウンターの長さ、間柱数により使用本数が異なる

11 下段カウンターの取り付け

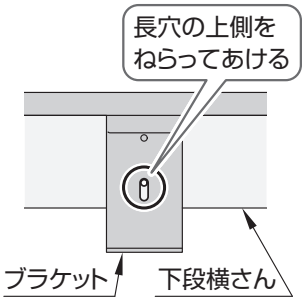
※図はベッセルタイプ（角形）の場合

❶ 手洗器キャビネットに押し当てる

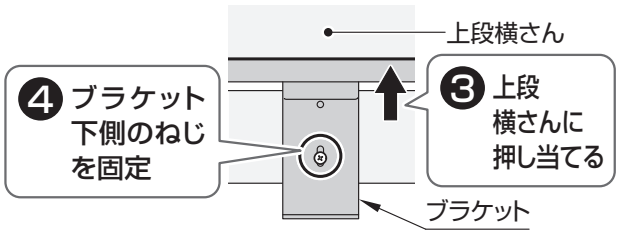


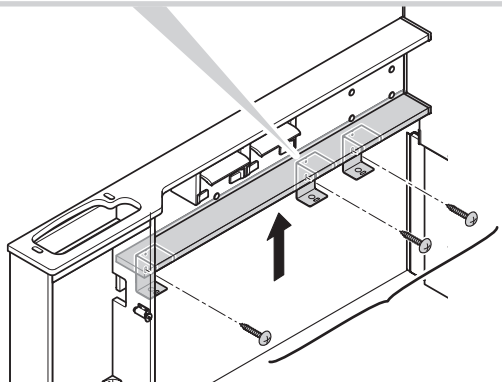
❷ けがき → 下穴
φ3

下段横さんに載せて下側の長穴にけがき、下穴をあける

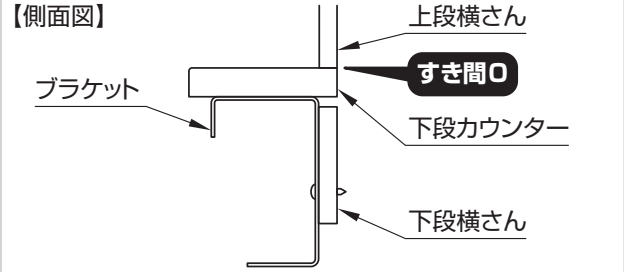


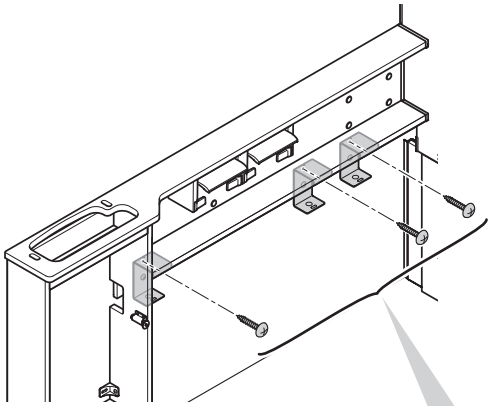
❺ トラスタッピンねじ 4×20（3本）





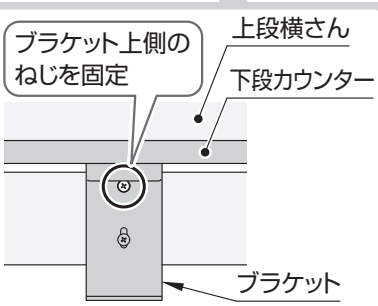
取付イメージ





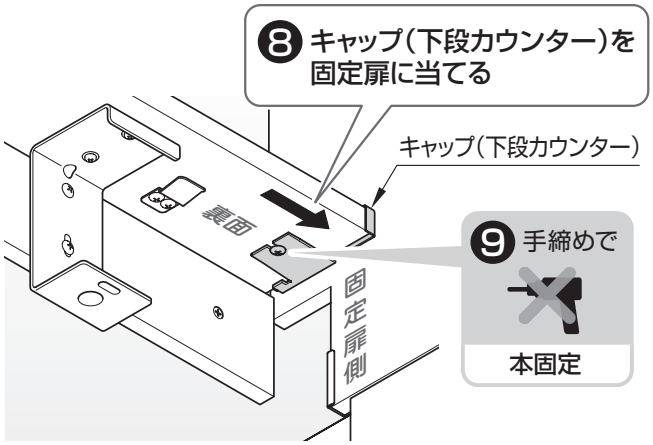
❻ けがき → 下穴

❼ トラスタッピンねじ 4×20（3本）



必ず実施してください

上段横さんと下段カウンターにすき間がある場合は ❸ に戻って長穴で調整する

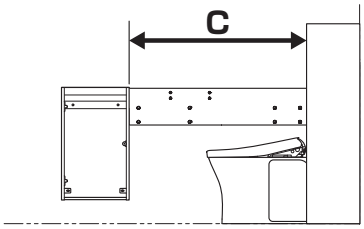


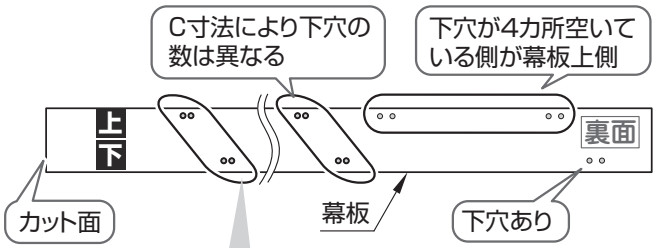
MEMO

12 幕板部材の取り付け

❶ C寸法を確認する

※C寸法が765mm～959mmの場合は❸へ
※右勝手の場合、左右反転した形状となります。

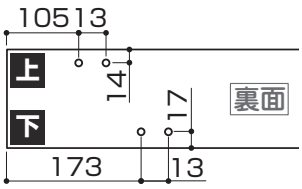




❷ けがき → 下穴

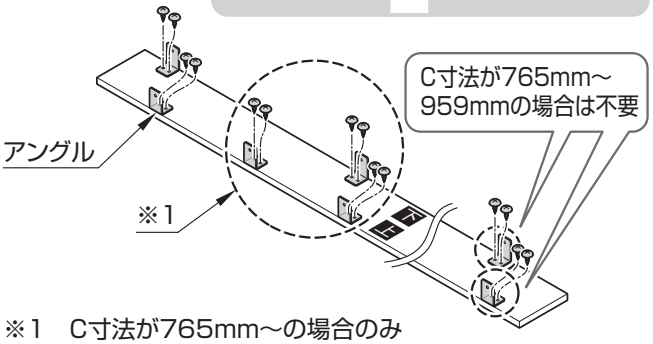
アングルの取付位置をけがき、下穴を深さ5mmであける

※貫通させないこと



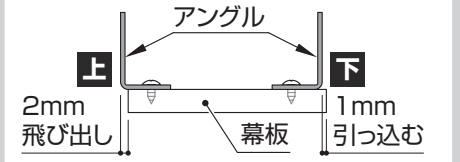
❸ 手締めで

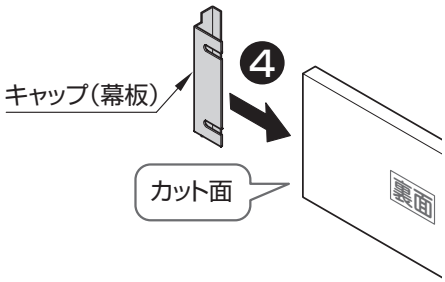
トラスタッピンねじ 4×10（14本）

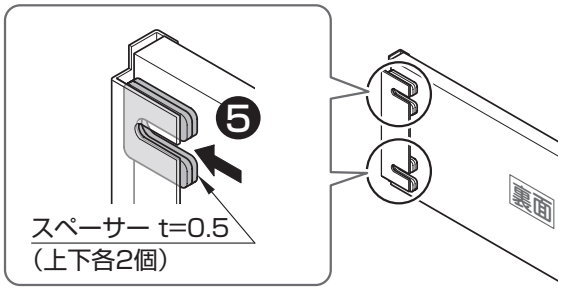


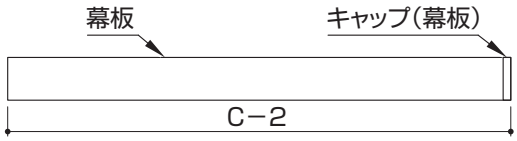
※1　C寸法が765mm～の場合のみ

完成図







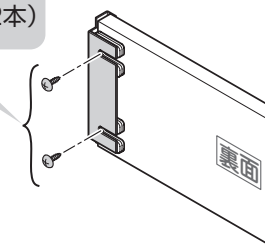


❻ 測定

キャップの位置を調整する

❼ 手締めで

トラス タッピンねじ 4×10（2本）



14. 手洗器・水栓金具

使用部材

詰め合わせ箱

施工説明書

型紙
※ベッセルタイプ（丸形/角形）の場合は使用しません。

詰め合わせ箱（手洗器キャビネット用）

付属材セット（手洗器）

【ベッセルタイプ（丸形/角形）】

付属材セット（手洗器）

- クリップナット（2個）
- ばね座金 M6（2個）

付属材セット

- 寸切ボルト M6×65（2本）
- ローレットナットM6（2個）
- 平座金 M6（4個）

クッション材（1個）

【ハイバックタイプ】

付属材セット（手洗器）

- クリップナット（2個）
- ばね座金 M6（2個）

付属材セット

- 寸切ボルト M6×40（2本）
- ローレットナットM6（2個）
- 平座金 M6（4個）

クッション材（1個）

取付材（2個）

自動水栓

（1個）
※図はベッセルタイプ（角形）

ハンドル式水栓

（1個）
※図はベッセルタイプ（角形）

その他包装

カウンター

取付材セット（排水ソケット）

【ベッセルタイプ（丸形）】
【ベッセルタイプ（角形）】
【ハイバックタイプ】
※図はベッセルタイプ（角形）

取付材（1個）

座金組込なべ小ねじ 4×12（4本）

排水ソケットセット

排水ソケット（1個）

パッキン（排水口）（1個）

手洗器

【ベッセルタイプ（丸形）】
【ベッセルタイプ（角形）】
【ハイバックタイプ】

（1台）

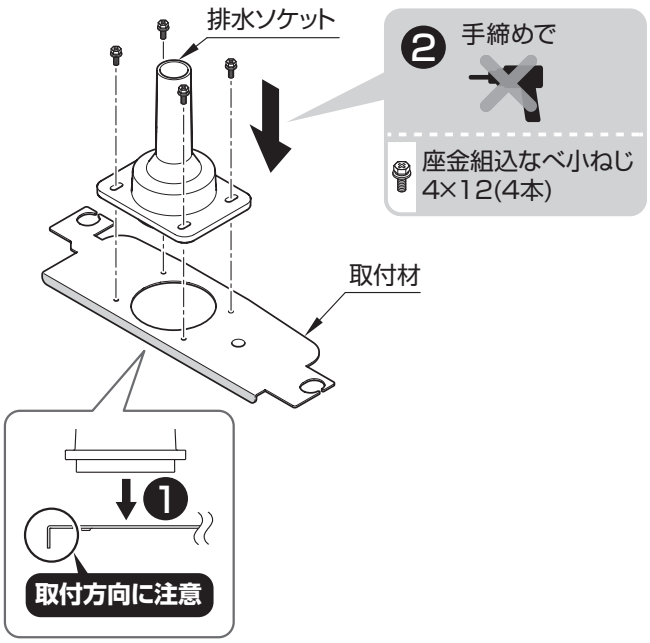
※図はベッセルタイプ（角形）

1 排水ソケットの組み付け

⚠注意

必ず守る

取付後、排水ソケットと取付材の間にすき間がないことを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因になります。



2 クッション材のはり付け

❶ はり付け面の汚れ･ホコリなど十分にふき取る

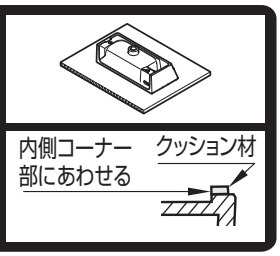
❷ クッション材のセパレータをはがしながら、下記の位置にクッション材をはり付ける

⚠警告

必ず守る

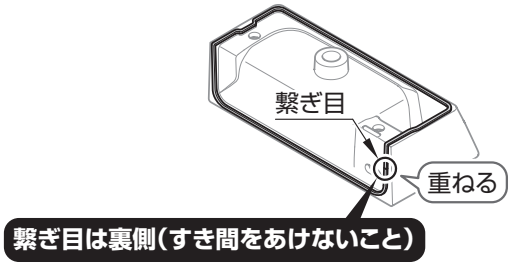
クッション材のはり付けは確実に行う
水などが浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。

- **手洗器上面を下側にする際は、ダンボールなどを敷く**
  手洗器に傷が付かないようにしてください。
- **手洗器の内側コーナー部にあわせてはり付ける**
  設置後にクッション材がはみ出すことがあります。



ベッセルタイプ（丸形）

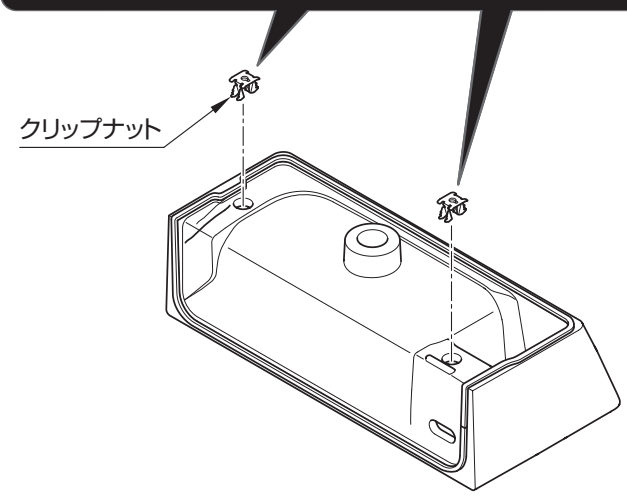
ベッセルタイプ（角形）



3 手洗器の組み立て

❶ 平らな面に手洗器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

施工不良防止



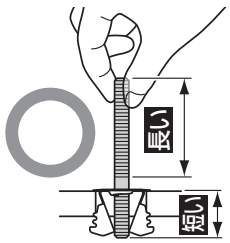
❷ 手締めで

【ベッセルタイプ（丸形／角形）の場合】

寸切ボルト
M6×65（2本）

【ハイバックタイプの場合】

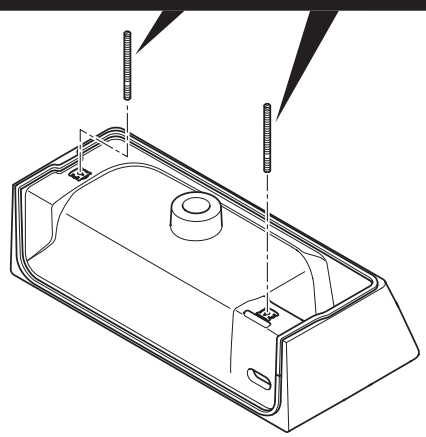
寸切ボルト
M6×40（2本）



軽く手でつまんで、入るまで締める

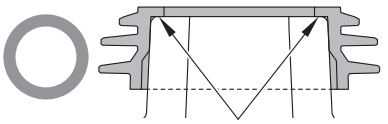
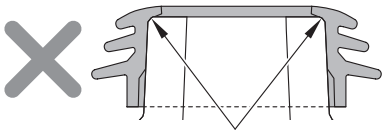
- 寸切ボルトをドライバーで深く締めない
- 斜めに入ったねじを無理に真っすぐにしない

施工不良防止

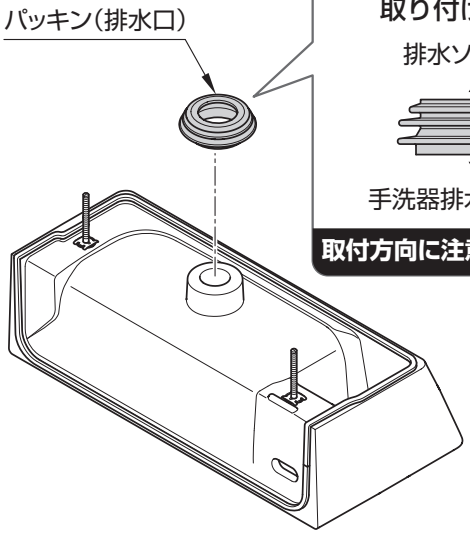


4 パッキン（排水口）の取り付け

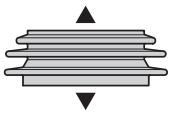
⚠注意

禁止	**パッキン（排水口）にグリスを使用しない** 劣化し水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
必ず守る	**パッキン（排水口）は手洗器排水口に密着するまで押し込む** 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。  密着するまで押し込む  差し込みすぎ

❶ 手洗器排水口外周の汚れを取り除き、取り付ける



排水ソケット側



手洗器排水口装着側

取付方向に注意

ベッセルタイプ（丸形）の場合	▶P.75
ベッセルタイプ（角形）の場合	▶P.76
ハイバックタイプの場合	▶P.77

ベッセルタイプ（丸形）

5 手洗器の取り付け

❶ バックパネル（オプション）の取り付けは、手洗器固定前に行う

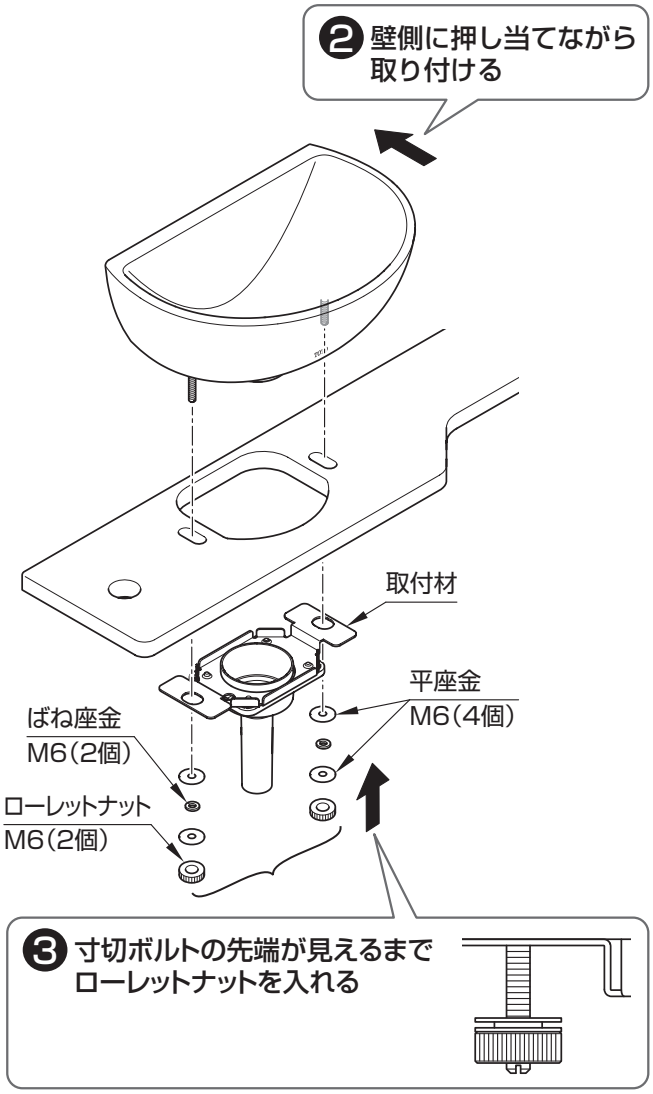
参照 バックパネルの施工説明書

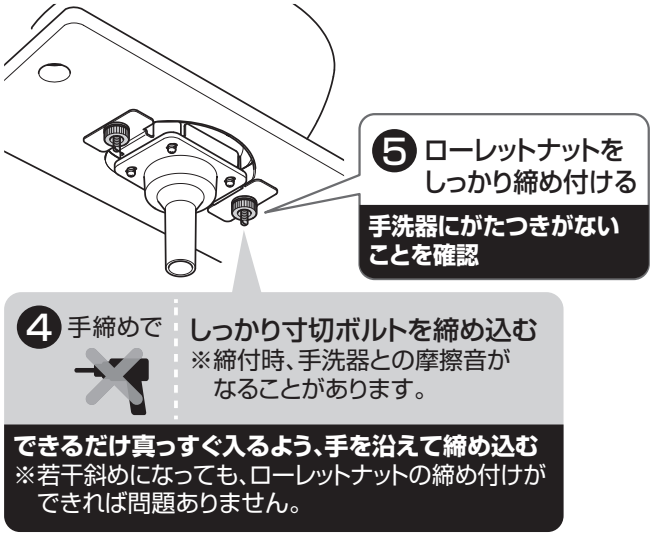
⚠注意

必ず守る

パッキン（排水口）がセットされていることを確認する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



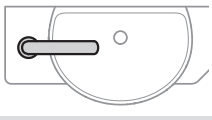


6 水栓金具の取り付け

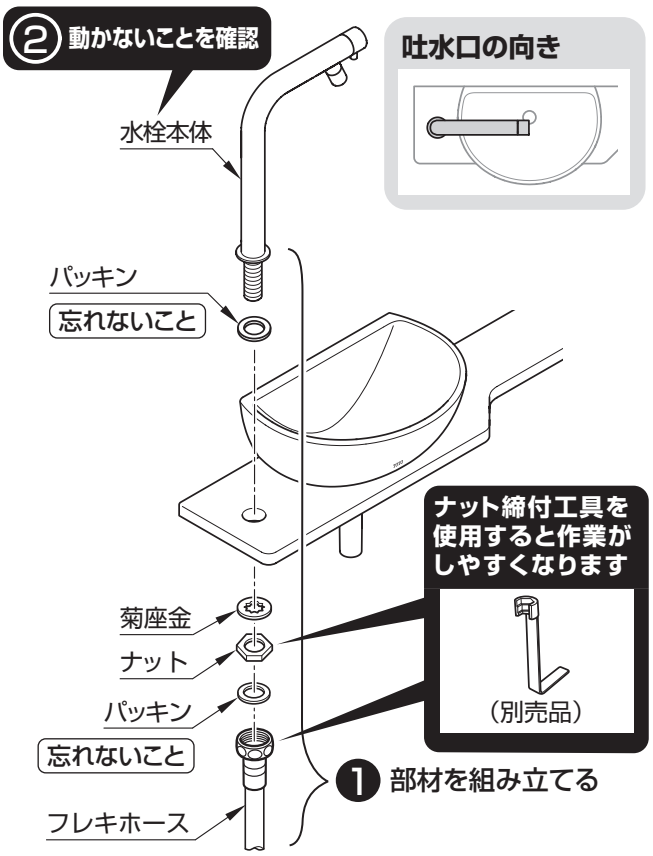
自動水栓の場合

参照 自動水栓の施工説明書

吐水口の向き



ハンドル式水栓の場合



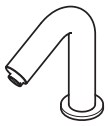
☞ P.79 15.給排水部材（手洗器）へ

ベッセルタイプ（角形）

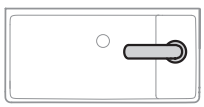
5 水栓金具の取り付け

自動水栓の場合

参照 自動水栓の施工説明書

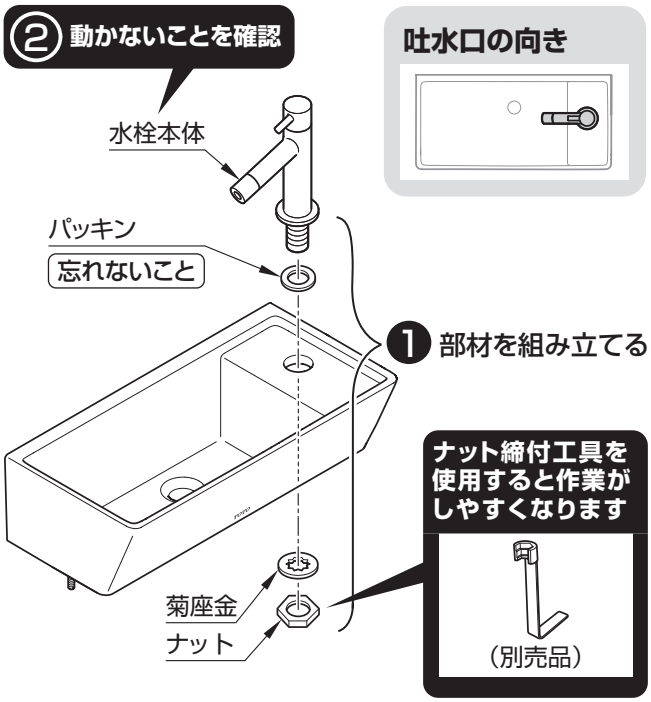


吐水口の向き



ハンドル式水栓の場合

吐水口の向き



6 手洗器の取り付け

バックパネル（オプション）ありの場合

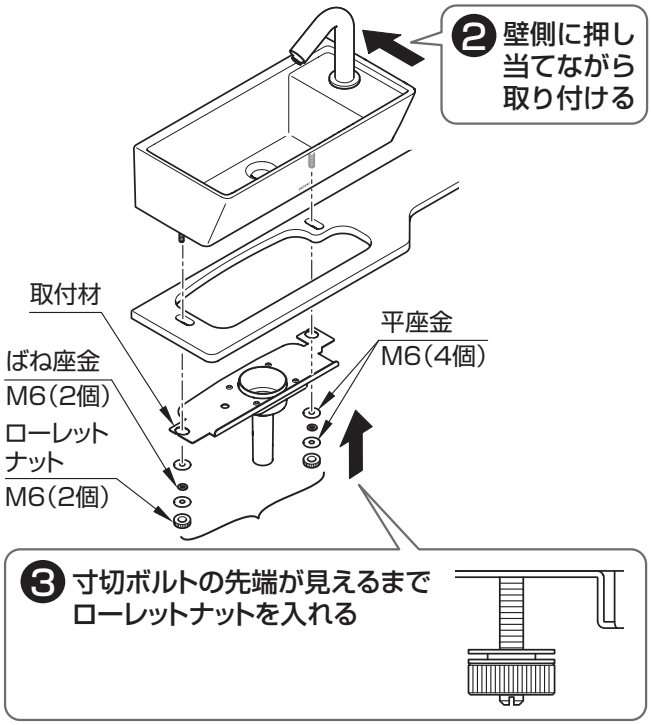
❶ 手洗器を仮置きし、取付材組品（バックパネル）を取り付ける

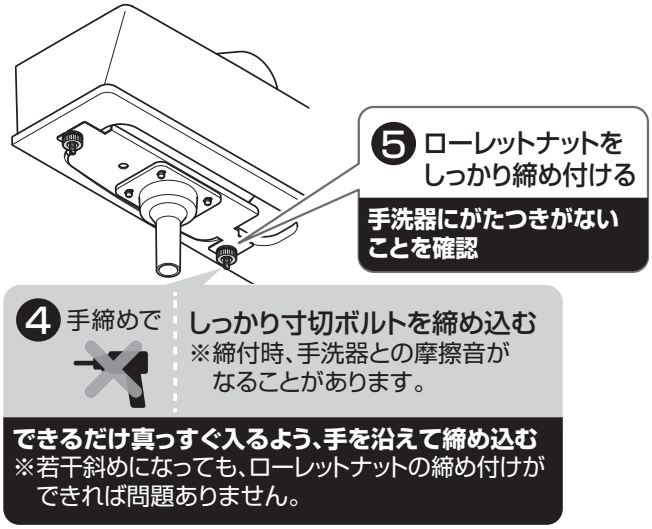
参照 バックパネルの施工説明書

各タイプ共通

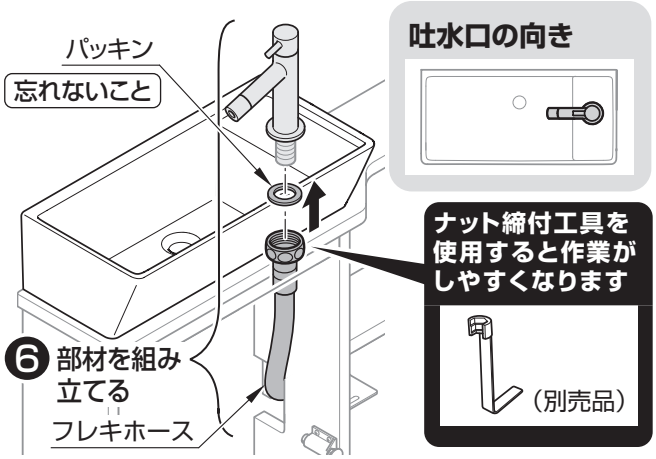
⚠注意

禁止	**水栓部分を持たない** 給水金具が破損して水漏れし、財産損害発生の原因となります。
必ず守る	**パッキン（排水口）がセットされていることを確認する** 水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。





ハンドル式水栓の場合



バックパネル（オプション）ありの場合

❼ バックパネルを取り付ける

参照 バックパネルの施工説明書

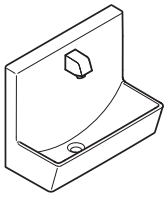
☞ P.79 15. 給排水部材（手洗器）へ

ハイバックタイプ

5 水栓金具の取り付け

自動水栓の場合

あらかじめ手洗器にセットされています。



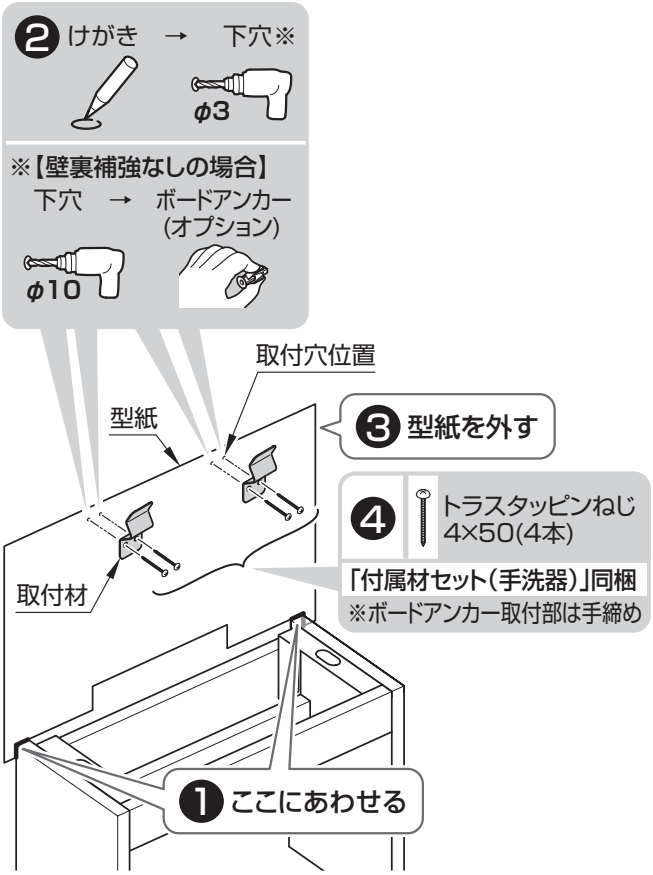
ハンドル式水栓の場合

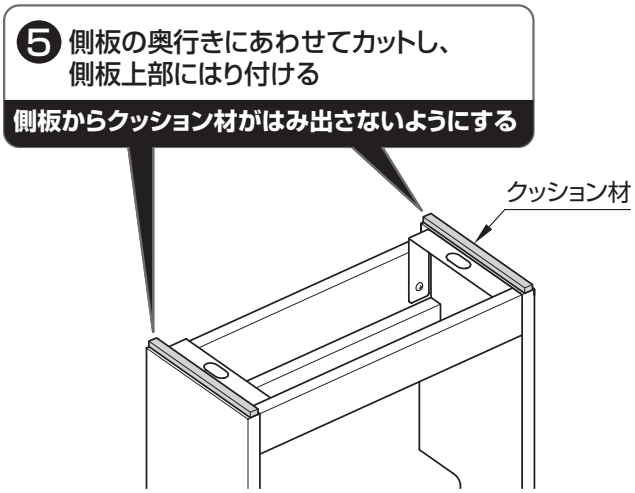
参照 ハンドル式水栓の施工説明書

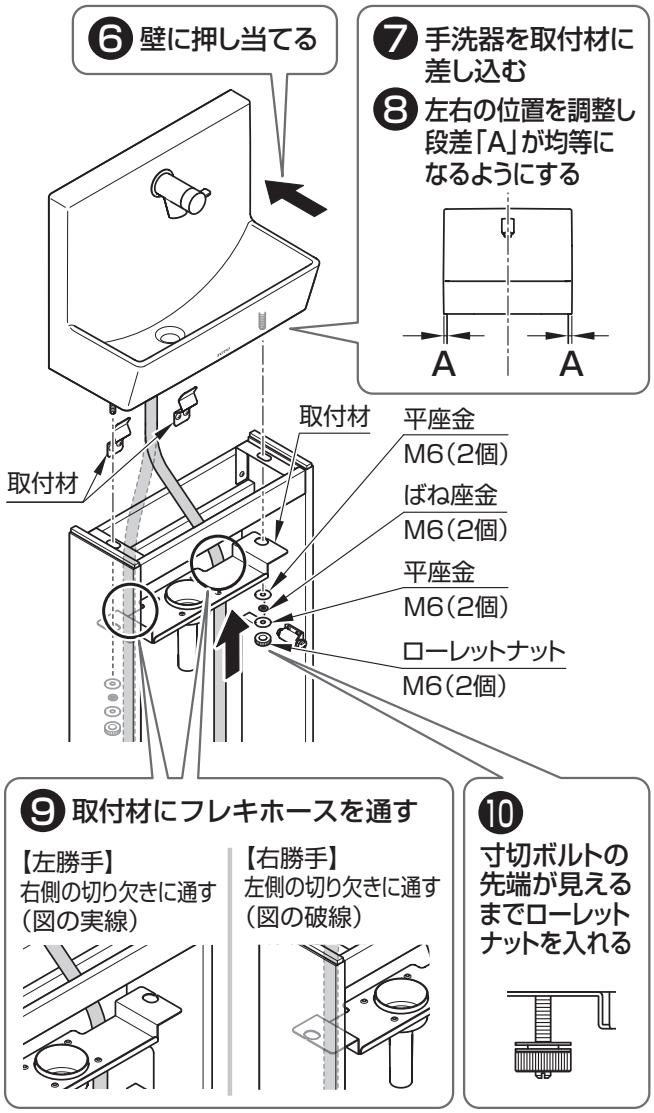
6 手洗器の取り付け

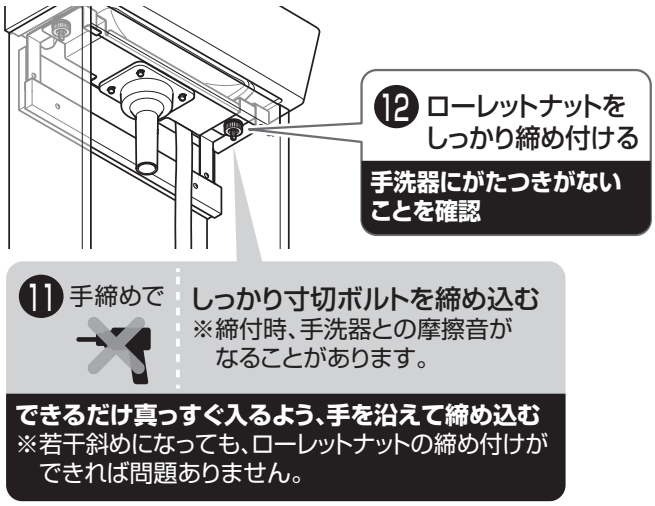
⚠注意

禁止	**水栓部分を持たない** 給水金具が破損して水漏れし、財産損害発生の原因となります。
必ず守る	**パッキン（排水口）がセットされていることを確認する** 水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。






❻ 壁に押し当てる
❼ 手洗器を取付材に差し込む
❽ 左右の位置を調整し段差「A」が均等になるようにする
A
A
取付材
取付材
平座金
M6（2個）
ばね座金
M6（2個）
平座金
M6（2個）
ローレットナット
M6（2個）
❾ 取付材にフレキホースを通す
【左勝手】
右側の切り欠きに通す（図の実線）
【右勝手】
左側の切り欠きに通す（図の破線）
❿
寸切ボルトの先端が見えるまでローレットナットを入れる


⓬ ローレットナットをしっかり締め付ける
手洗器にがたつきがないことを確認
⓫ 手締めで
しっかり寸切ボルトを締め込む
※締付時、手洗器との摩擦音がなることがあります。
できるだけ真っすぐ入るよう、手を沿えて締め込む
※若干斜めになっても、ローレットナットの締め付けができれば問題ありません。

MEMO

15. 給排水部材（手洗器）

使用部材

詰め合わせ箱

付属材セット（キャビネット）

ホースクランプセット

- ホースクランプ（1個）
- トラスタッピンねじ 4×30（1本）

排水管固定材セット

- 皿タッピンねじ 4×16（1本）

詰め合わせ箱（手洗器キャビネット用）

自動水栓コントローラー部

- コントローラー（1個）
- 自動水栓機能部（1個）
- ファスナーガイド（1個）
- つば付ナット（1個）
- 取付金具（1個）
- 座付タッピンねじ 4.5×38（2本）
- ホースクランプ（1個）

コントローラー固定材セット

- コントローラー固定材（1個）
- トラスタッピンねじ 4×30（3本）

コンセントプレートカバー※電気温水器付の場合

- コンセントプレートカバー（1個）
- トラスタッピンねじ 4×30（2本）

その他包装

カウンター

排水ソケットセット

- 袋ナット（1個）
- パッキン（排水口）（1個）

ドラムトラップ組品

- ドラムトラップ（1個）
- クイックファスナー（1個）

排水管組品

- （1本）

付属材セット

- トラスタッピンねじ 4×12（2本）
- 結束バンド（2個）
- ホースクランプ（大）（2個）

電気温水器※電気温水器付の場合

（1箱）

- 電気温水器本体（1台）
- 固定アングル1（1個のみ使用）　16.5
- 化粧ラベル（1枚）
- L=300 排水ホース（1本）
- 固定アングル取付用ねじ M4×10（2本のみ使用）
- 壁固定用タッピンねじ 4×30（2本のみ使用）
- 施工説明書（1冊）

※ここに記載のない部品は使用しません。

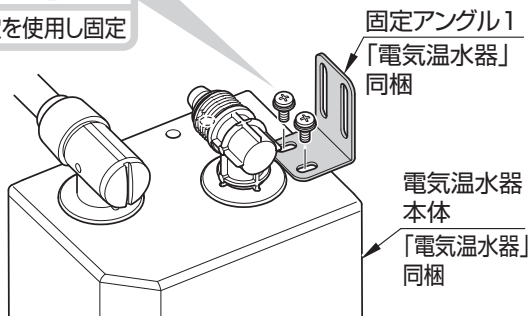
1 電気温水器の取り付け

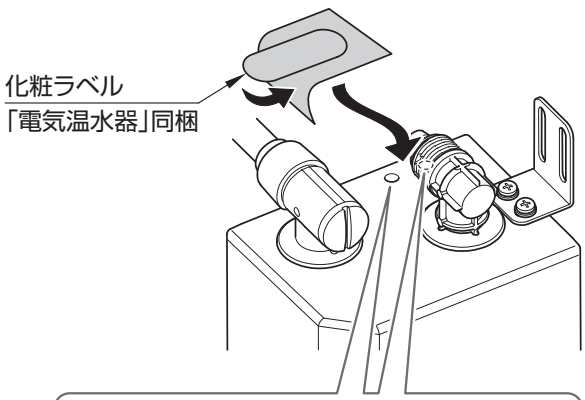
電気温水器なしの場合は 2 へ

❶ 手締めで

座金組込なべ小ねじ M4×10(2本)
「電気温水器」同梱

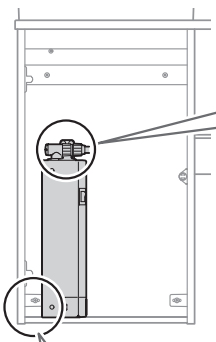
短辺側の穴を使用し固定



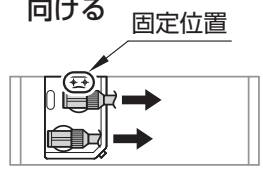


❷ 長辺側の穴に化粧ラベルをはりふさぐ

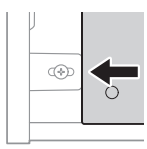
【左勝手】



❸ キャビネット内側に向ける

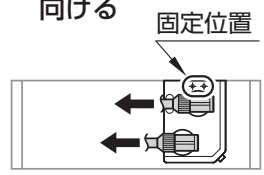


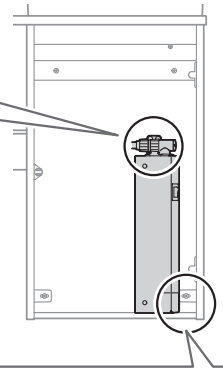
❹ 手洗器キャビネット内のアングルに電気温水器を突き当てる



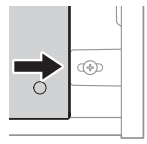
【右勝手】

❸ キャビネット内側に向ける





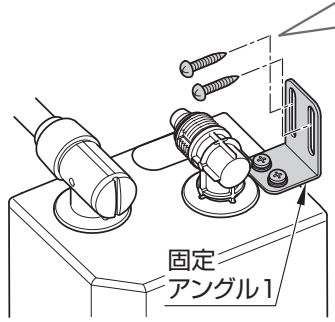
❹ 手洗器キャビネット内のアングルに電気温水器を突き当てる



❺ 壁に固定する※

なべタッピンねじ 4×30(2本)
「電気温水器」同梱

※【壁裏補強なしの場合】
下穴 → ボードアンカー（オプション）



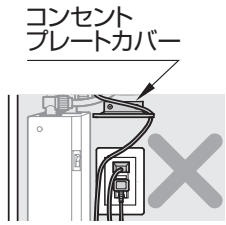
ボードアンカー取付部は手締め

⚠ 警告

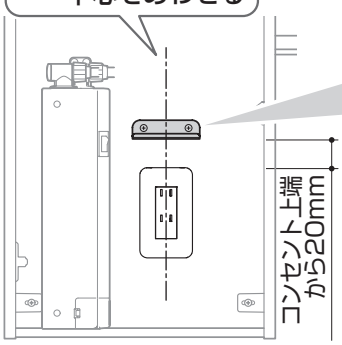
禁止

電源コード・アース線は、キャビネットと電気温水器との間や、扉に挟まない
コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

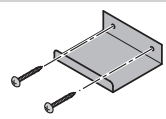
電源コードはコンセントプレートカバーの上を通さない
結露水がコードを伝わりコンセントにかかり、火災や感電のおそれがあります。



❻ コンセントと中心をあわせる



❼ トラスタッピンねじ 4×30(2本)



※【壁裏補強なしの場合】
下穴 → ボードアンカー（オプション）

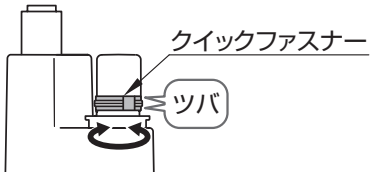
ボードアンカー取付部は手締め

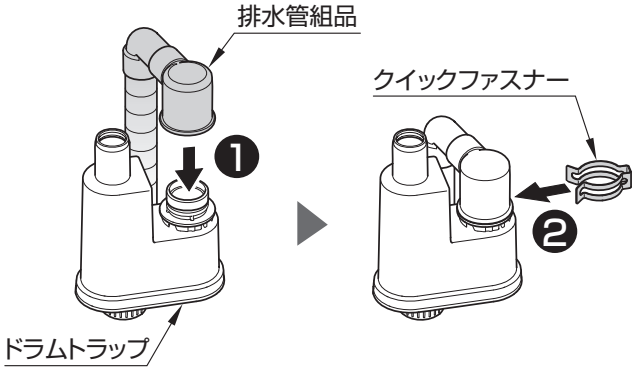
2 ドラムトラップの取り付け

⚠注意

必ず守る

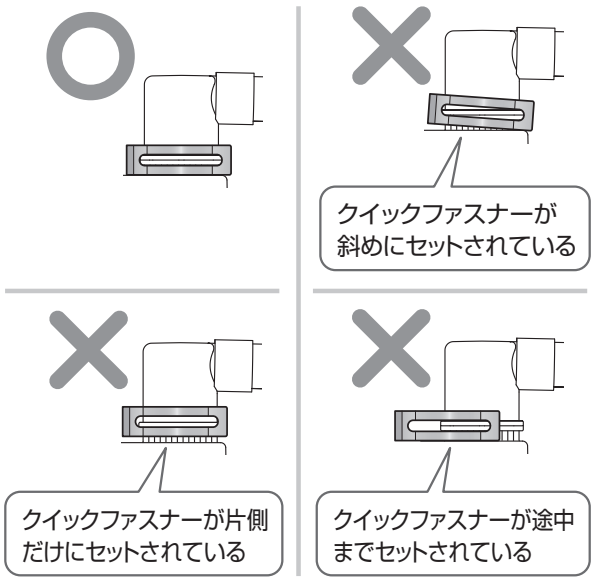
・クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する
・全周にツバがかかっていることを確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。





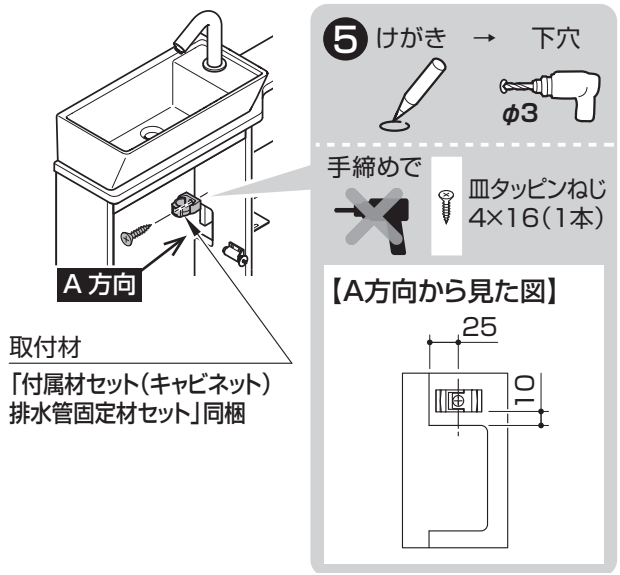
クイックファスナーの取り付けかた

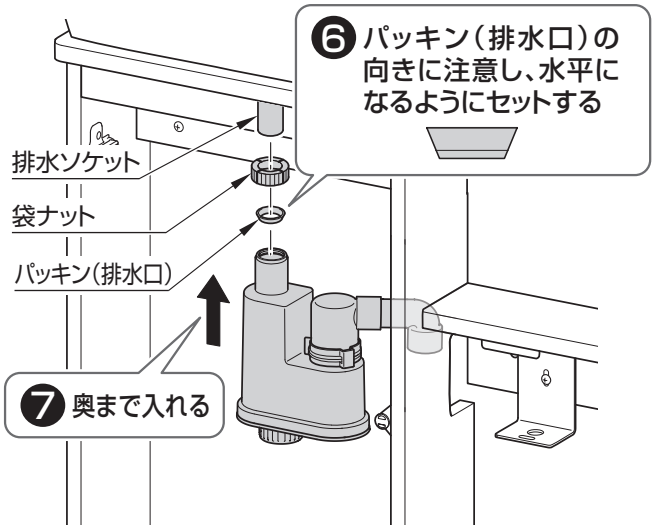
❸ クイックファスナーが正しくセットされているか確認する



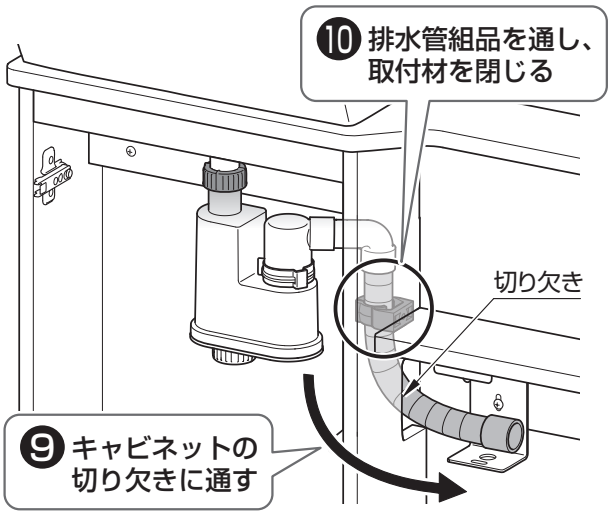
❹ 排水管組品を強く引っ張って抜けないことを確認する

クイックファスナーを正しくセットする
排水管組品が抜けて水漏れのおそれがあります。



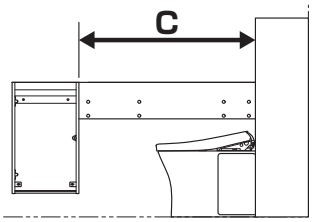


❽ 袋ナットを手で確実に締める
※手で軽く抵抗があるところまで回し、さらに90度以上締め付けるのが目安です。



3 手洗器用排水ホースの取り付け

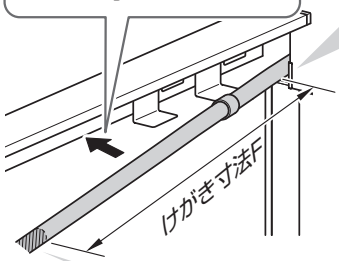
❶ C寸法を確認する



❷

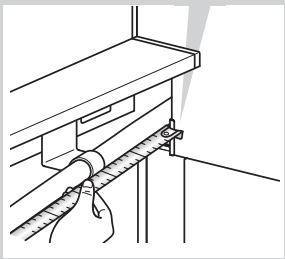
奥行寸法C	−	規定寸法	=	けがき寸法F
		180		

❹ 上段カウンター側に寄せる



❸ けがき

大便器キャビネットに当て、けがく

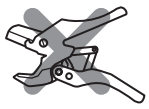


⚠注意

必ず守る

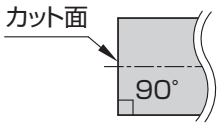
手洗器用排水ホースカット時、押切タイプのパイプカッターは使用しない

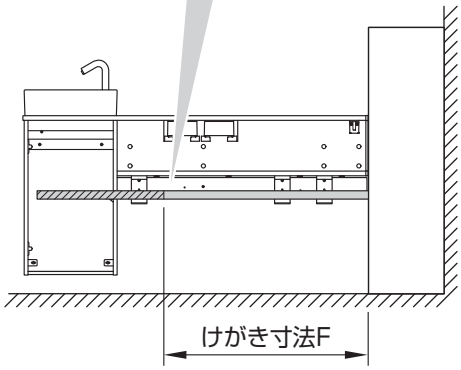
手洗器用排水ホースの断面が変形し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

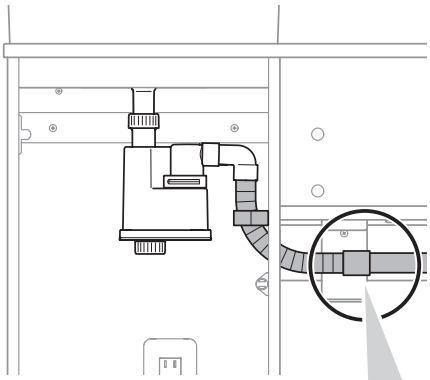


❺ カット

手洗器用排水ホースは垂直にカットする

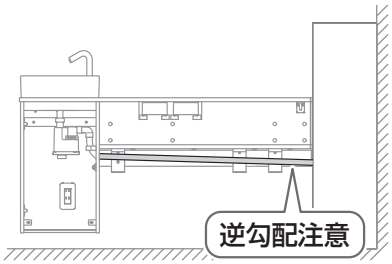






❻ 両面塗布

❽ 逆勾配にならないように、必ず下段横さんの下穴に固定する



排水不良防止

❾ 固定する

手締めで

トラスタッピンねじ 4×12(2本)

※C寸法が705mm～の場合のみ取り付け

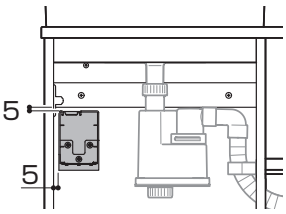
4 コントローラー・機能部の取り付け

ハンドル式水栓の場合は 5 へ

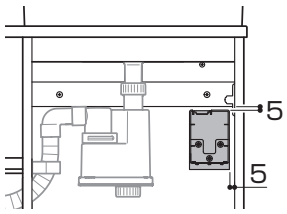
❶ けがき → 下穴※

※【壁裏補強なしの場合】
下穴 → ボードアンカー（オプション）

【左勝手】

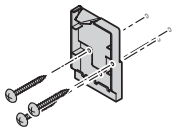


【右勝手】

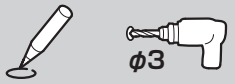


❷ トラスタッピンねじ 4×30（3本）
※ボードアンカー取付部は手締め

下穴あわせで固定する

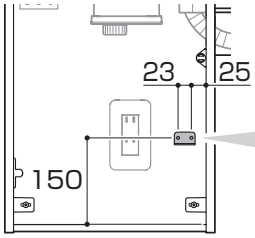


❸ けがき → 下穴※

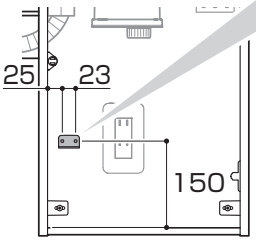


※【壁裏補強なしの場合】
下穴 → ボードアンカー（オプション）

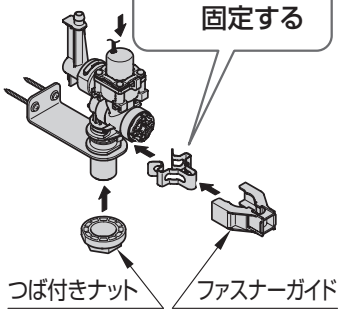
【左勝手】

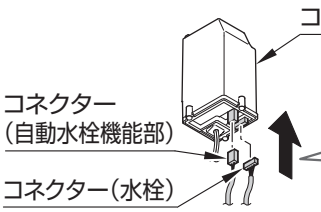


【右勝手】



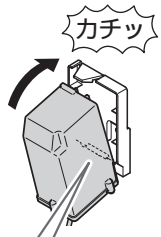
❹ 座付タッピンねじ 4.5×38（2本）
※ボードアンカー取付部は手締め





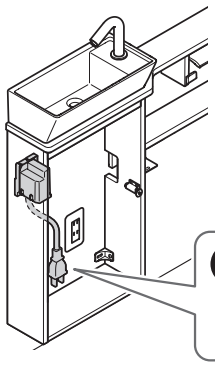
❻ 水栓・自動水栓機能部からのコネクターを接続

接続はハウジングを持って差し込む



❼ 下部を引っ掛けながら固定する

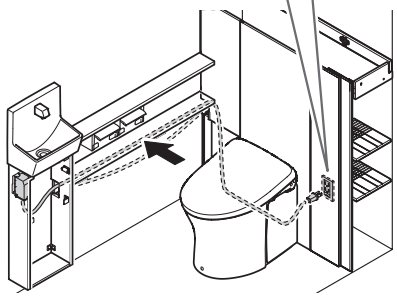
電気温水器ありの場合



❽ 自動水栓のプラグをキャビネット内のコンセント付近に配置

電気温水器なしの場合

❽ 自動水栓のプラグを大便器周辺のコンセント付近に配置

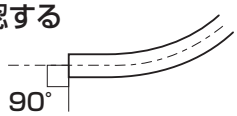


5 ホースの取り付け

⚠注意

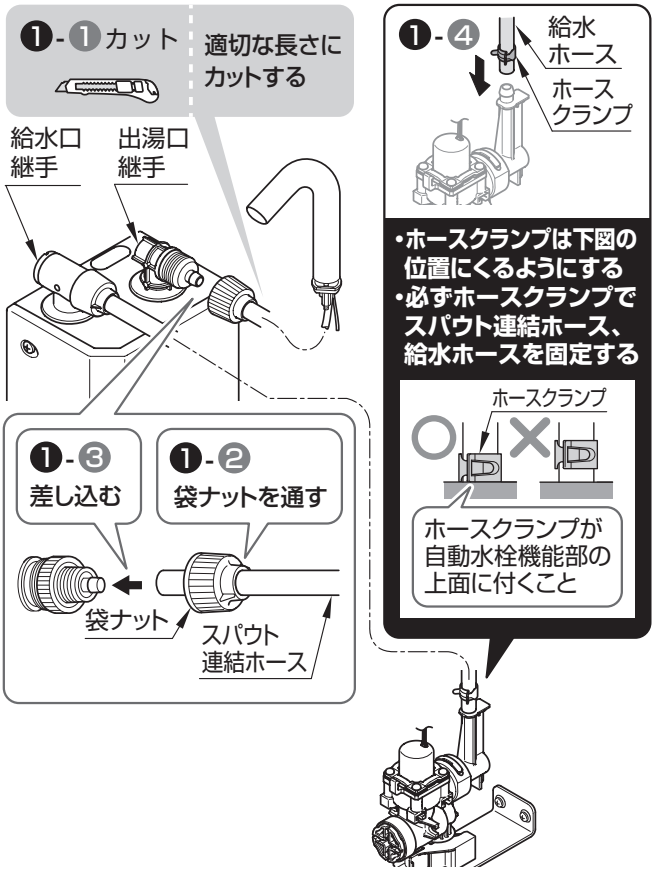
必ず守る

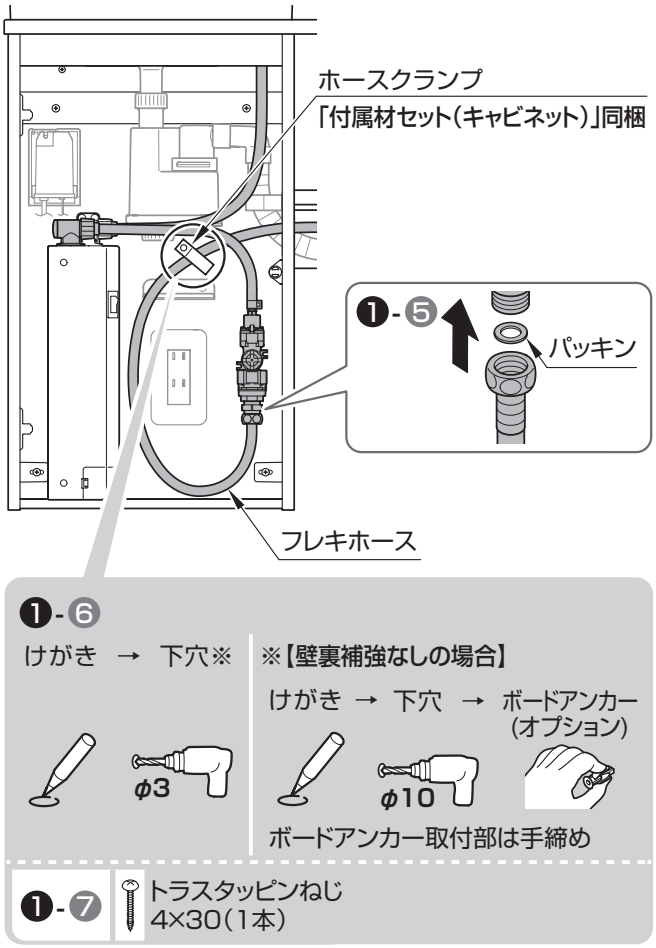
- スパウト連結ホースは、切断面が垂直になるようにカットする
- スパウト連結ホース接続後、確実に固定されていることを確認する
  水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



- スパウト連結ホースが確実に差し込まれているか確認する
- スパウト連結ホースが折れ曲がらないよう注意する
  水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

自動水栓（電気温水器あり）





P.85 ❷へ

自動水栓（電気温水器なし）

❶-❶カット　適切な長さにカットする

❶-❷ 給水ホース　ホースクランプ

•ホースクランプは下図の位置にくるようにする
•必ずホースクランプで給水ホースを固定する

ホースクランプ
ホースクランプが自動水栓機能部の上面に付くこと

ホースクランプ
「付属材セット（キャビネット）」同梱

❶-❸ パッキン

❶-❹
けがき → 下穴※
φ3

※【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー（オプション）
φ10
ボードアンカー取付部は手締め

❶-❺ トラスタッピンねじ 4×30（1本）

☞ 同ページ ❷へ

ハンドル式水栓

ベッセルタイプ（丸形）/ハイバックタイプの場合

フレキホース
ホースクランプなし

【ハイバックタイプの場合のみ】
パッキン
ニップル
パッキン

ベッセルタイプ（角形）の場合

【左勝手】
フレキホース
ホースクランプなし

【右勝手】
ホースクランプ
「付属材セット（キャビネット）」同梱

❶-❶
けがき → 下穴※
φ3

※【壁裏補強なしの場合】
けがき → 下穴 → ボードアンカー（オプション）
φ10
ボードアンカー取付部は手締め

❶-❷ トラスタッピンねじ 4×30（1本）

自動水栓/ハンドル式水栓 共通

結束バンド

❷ フレキホースを手洗器用排水ホースの上に載せる

❸ 固定する

※自動水栓の電源コードがある場合は手洗器用排水ホースの上に載せる

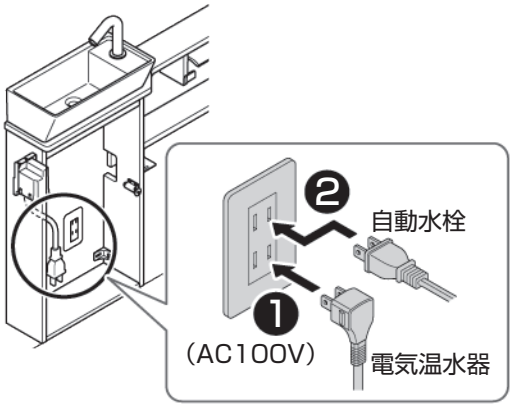
電源コード
フレキホース

16. 試運転・確認

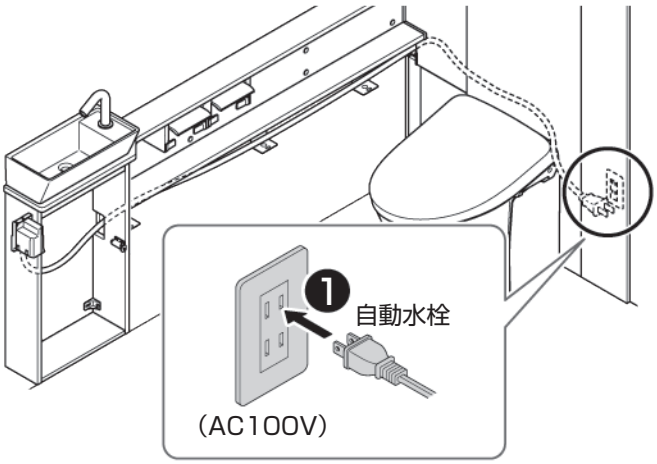
1 電源プラグの接続

自動水栓以外の場合は 2 へ

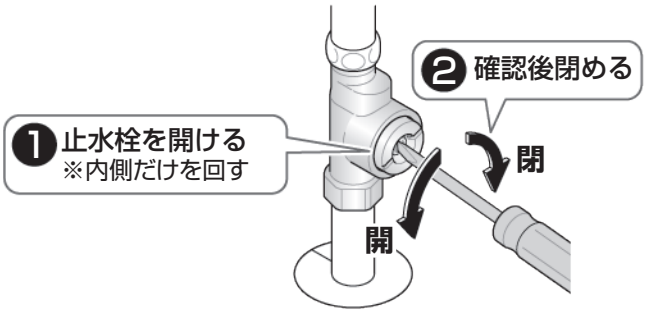
電気温水器ありの場合



電気温水器なしの場合



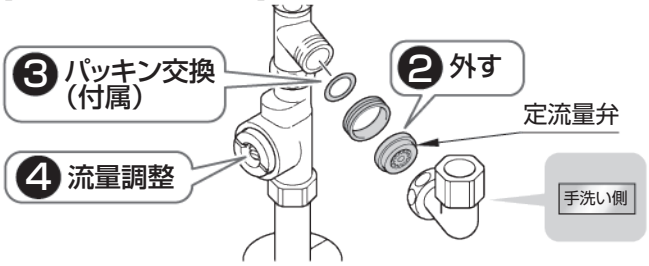
2 試運転の前準備



3 水栓の吐水量確認

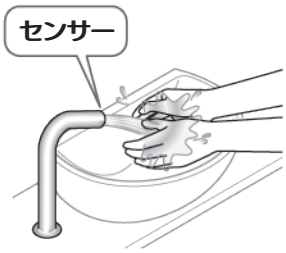
❶ 水栓の吐水確認をする

【吐水量が少ない場合】

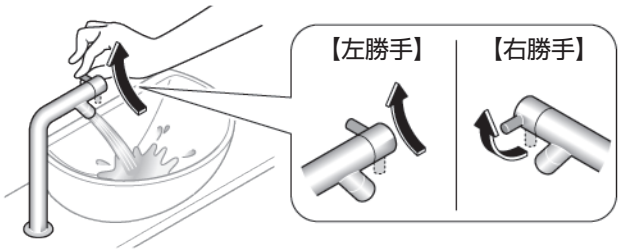


ベッセルタイプ（丸形）

自動水栓

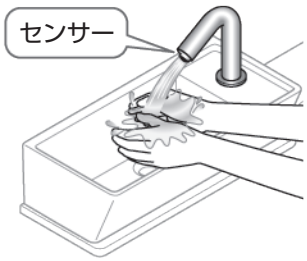


ハンドル式水栓

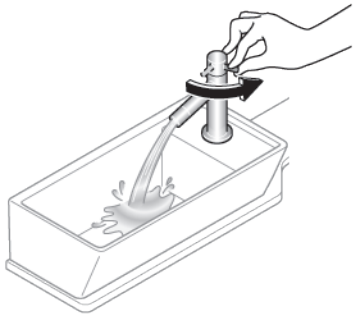


ベッセルタイプ（角形）

自動水栓

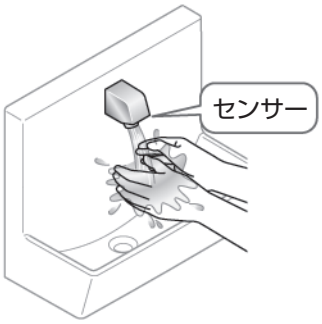


ハンドル式水栓

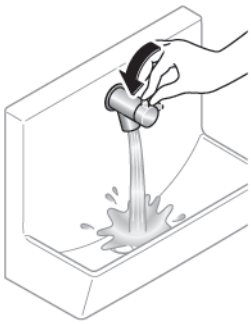


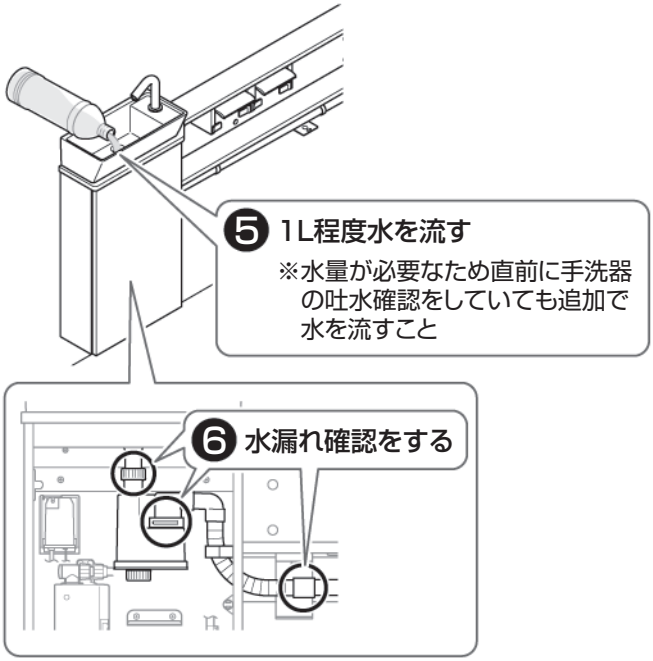
ハイバックタイプ

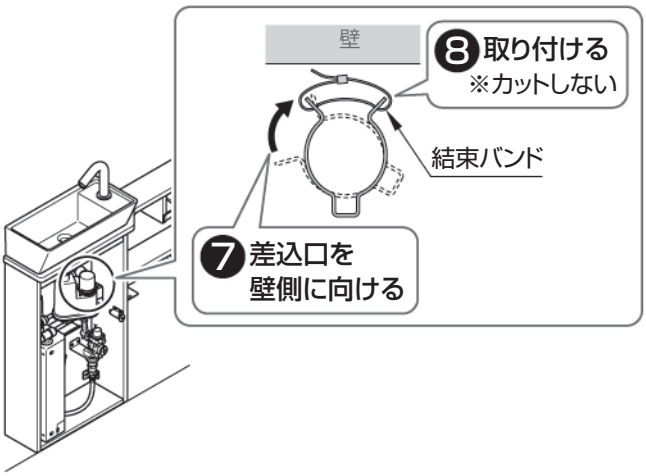
自動水栓



ハンドル式水栓







4 電気温水器の吐水確認

❶ 電気温水器を試運転し、吐水確認を行う

参照 電気温水器の施工説明書

5 ウォシュレットの吐水確認

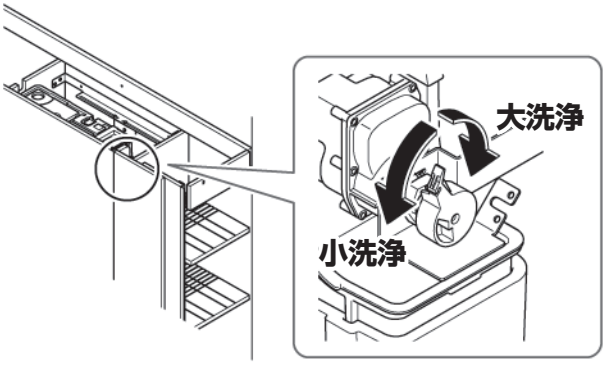
❶ ウォシュレットを試運転し、吐水確認を行う

参照 ウォシュレットの施工説明書

※試運転の前および試運転完了時は、必ず電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認してください。
（ウォシュレット本体表示部の「運転」ランプが点灯します。）

6 便器洗浄の確認

洗浄レバー

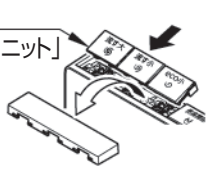


❶ 作動確認

コアキャビネット内の洗浄レバーを操作する
□大･小洗浄とも正常に行われるか
□スムーズに回転するか

リモコン

❶ 流すボタンが取り付けられているか確認する

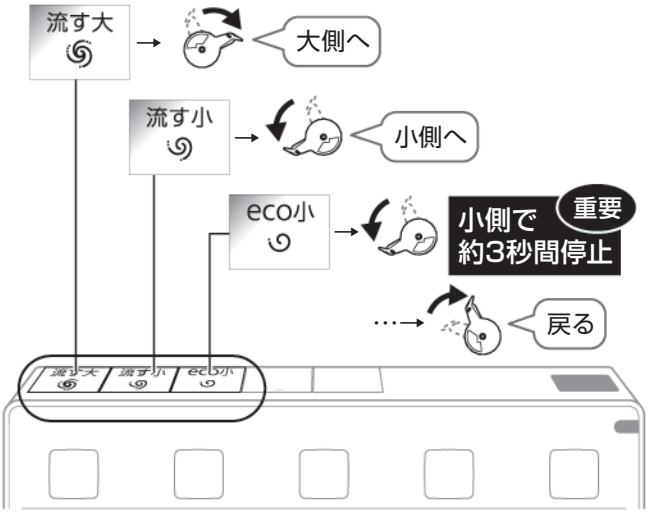


参照 流すボタン取付説明書

❷ 作動確認

□「大」・「小」・「eco小」のボタンを押して、それぞれの洗浄が正常に行われるか

※連続して押すと作動しません。
約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。



※機種によってデザインなどが異なります。

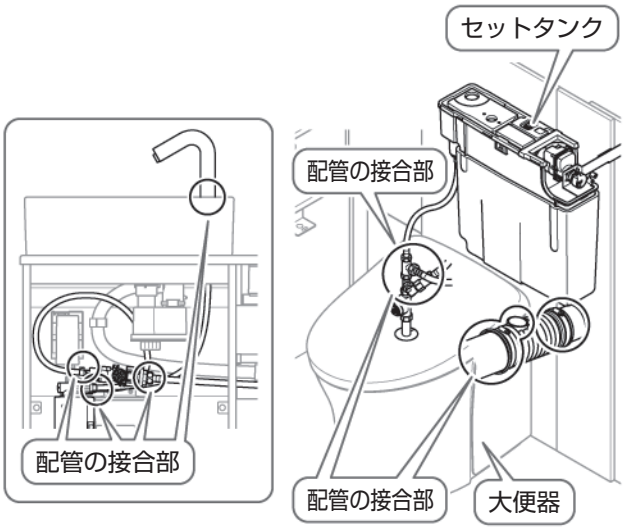
❸ 試運転完了後、「運転入/切」が、「入」になっていることを確認する（「運転ランプ」点灯）

「切」のときは、電源プラグをコンセントに差し込んでもウォシュレットは作動しません。
※お客様に引き渡すまでに時間があっても「運転入/切」を切らないでください。

7 大便器・配管類の水漏れ確認

❶ 作動確認

2～3度洗浄させて、水漏れなどがないことを確認する
□給水ホースの接続箇所は正しいか
□配管接合部からの水漏れがないか
□大便器・セットタンクからの水漏れがないか



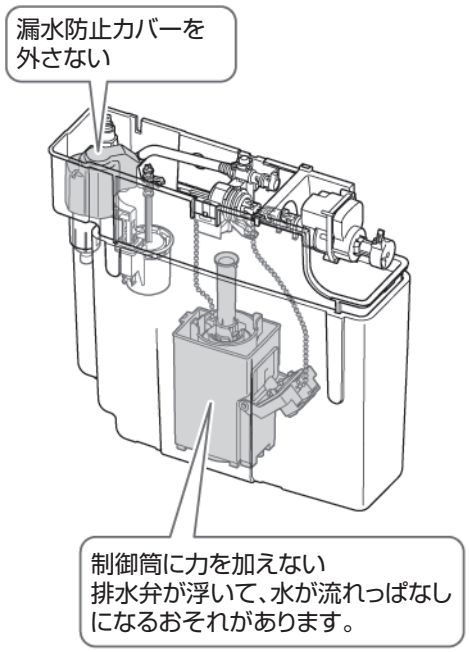
8 水位の確認

必ず実施してください

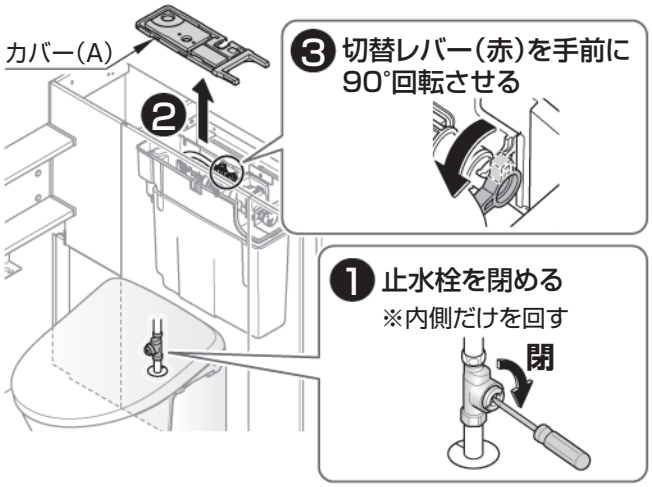
正常な状態	水たまり面が低い
設定変更不要です。	設定変更してください。 ▶P.89 「水たまり面が低い場合の対応方法」
○	✕
設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。	汚物付着の原因になります。 〈水たまり面　低下の理由〉 ・排水管に曲がりが多い ・通気が不十分

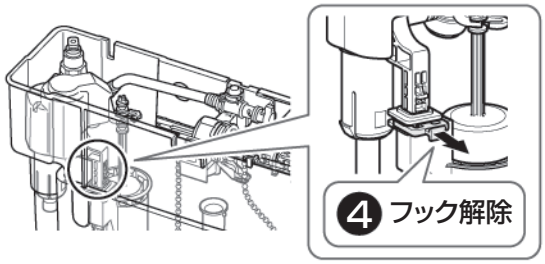
※水たまり面の判断に迷ったとき
ペットボトルやバケツなどで徐々に水を足し、水たまり面が上昇しない場合は正常です。

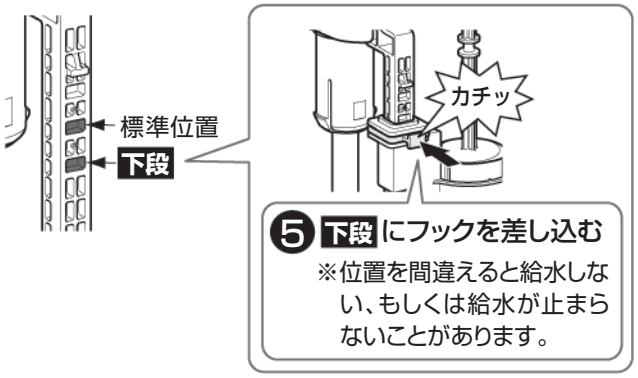
タンク内を調整する際のご注意

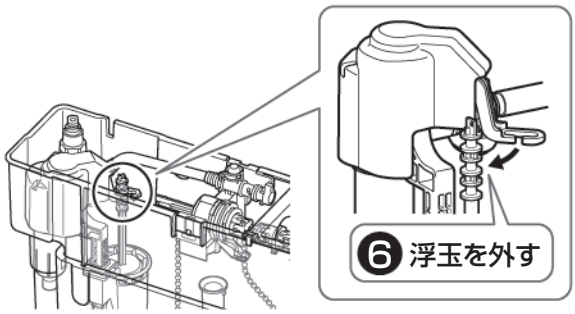


水たまり面が低い場合の対応方法









❽ カバー(A)を元に戻す

❾ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】

大洗浄	4.8L
小洗浄	3.6L
eco小洗浄	3.4L

変更できます。

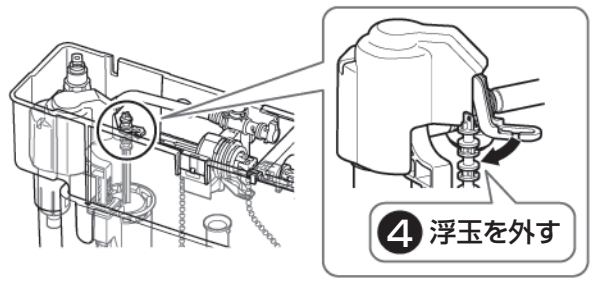
大洗浄	6L
小洗浄	4.8L
eco小洗浄	4.6L

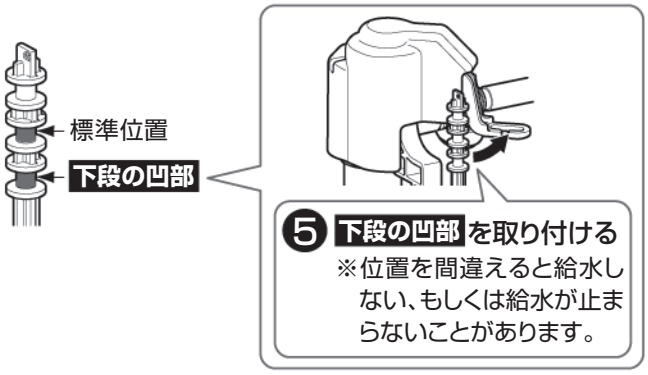
大洗浄	8L
小洗浄	7.5L
eco小洗浄	7L

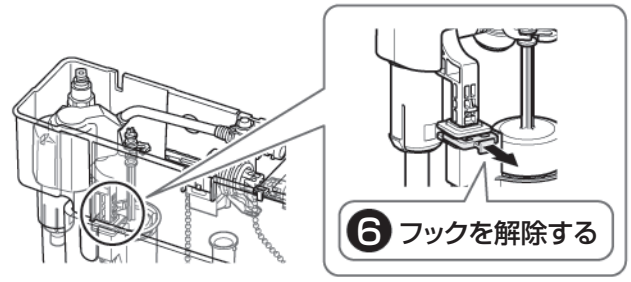
大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法

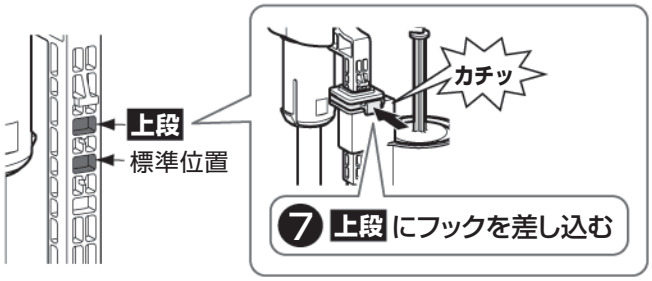
❶～❸

▶P.89 水たまり面が低い場合の対応方法 の
❶～❸を実施









※位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❽ カバー（A）を元に戻す

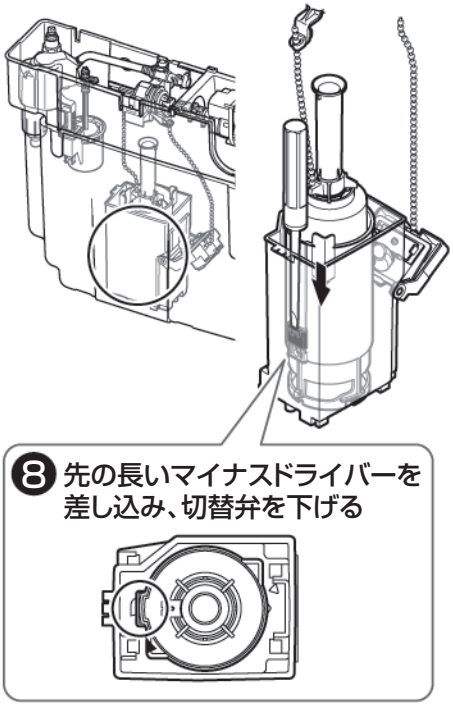
❾ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

大洗浄8L、小洗浄7.5L、eco小洗浄7L仕様への切替方法

❶～❼

▶同ページ 左 大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L仕様への切替方法 の
❶～❼を実施

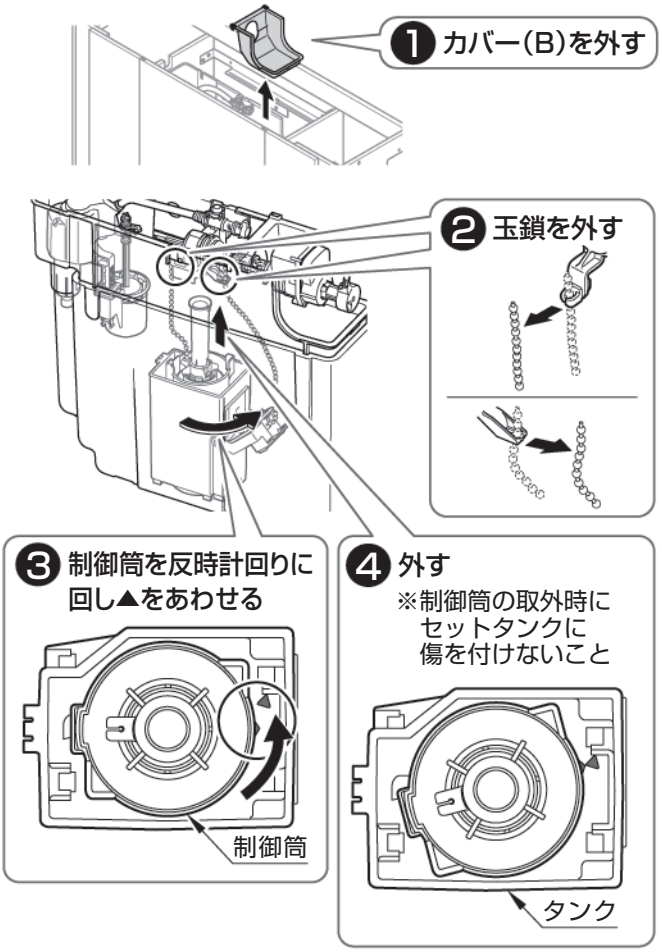


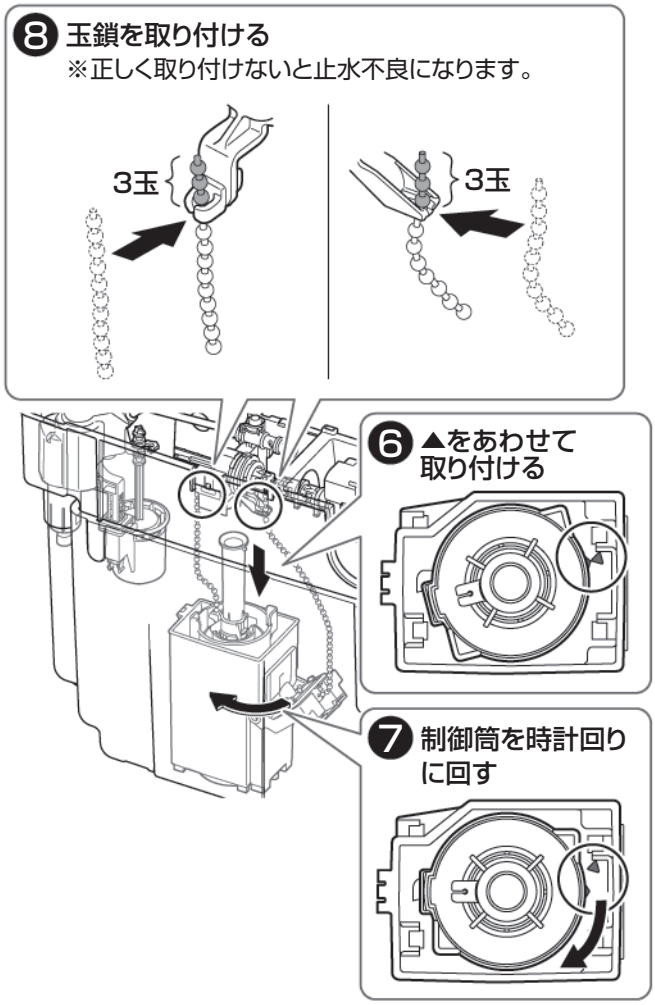
❾ カバー（A）を元に戻す

❿ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

切替弁を下げられなかった場合





❾ カバー（2個）を元に戻す

❿ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

9 やわらかライトの設定

※ウォシュレット アプリコットのやわらかライトは入/切を選択できます。

❶ 止 と 水勢 +

リモコンランプが
点灯・点滅するまで押す（約10秒）

確認

❷ おしり/ソフト 押す

❸ ビデ/ワイド 押す

❹ 設定したい項目を選んでボタンを押す

【「使う」とき】 水勢 + ピッ

【「使わない」とき】 水勢 − ピーッ

※ボタンのデザインは仕様により異なります。

10 給水フィルターの清掃

必ず実施してください

❶ 止水栓を閉める
※内側だけを回す

閉

開

❷ ふたを開け、
給水フィルターを取り外す
※外側だけを回す

※止水栓は必ず商品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

❸ 給水フィルターの清掃

❹ 給水フィルターを取り付け、
ふたを締め付ける

閉

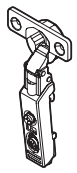
17. 天板

使用部材

詰め合わせ箱

天板開閉部材セット

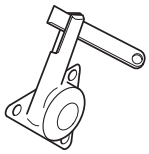
スライド丁番セット



スライド丁番
（2個）

皿タッピンねじ
3.5×14（4本）

ダンパーセット



ダンパー 本体
（1個）

ダンパー 座金
（1個）

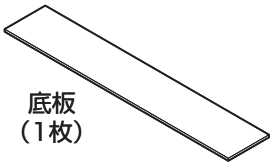
トラス小ねじ
M4×8（5本）

トラス小ねじ
M4×5（1本）

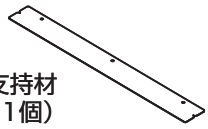
コアキャビネット

コアキャビネット

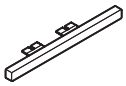
底板セット



底板
（1枚）



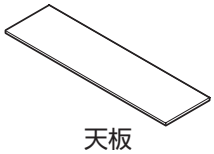
支持材
（1個）



キャップ
（1個）

トラスタッピンねじ
4×10（5本）

天板セット



天板
（1枚）

キャップセットL

キャップ（L）
（1個）

トラスタッピンねじ
4×8（2本）

キャップセットR

キャップ（R）
（1個）

トラスタッピンねじ
4×8（2本）

MEMO

1 天板の加工

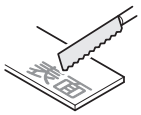
❶ 測定

W寸法
※奥・手前側の狭い方を基準にする

【上面図】

❷ けがき → カット

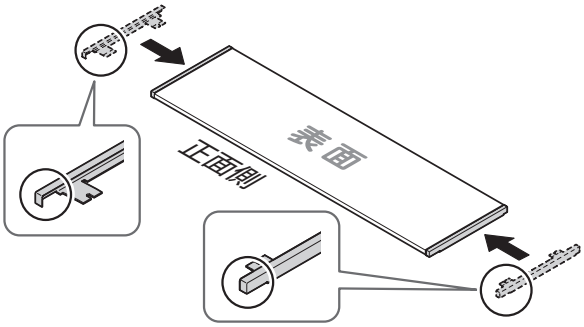
チッピングに注意すること



のこぎりの場合は表面からカット

丸のこの場合は裏面からカット

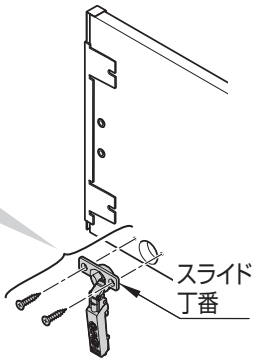
❸ 取り付け
※ねじ固定しない



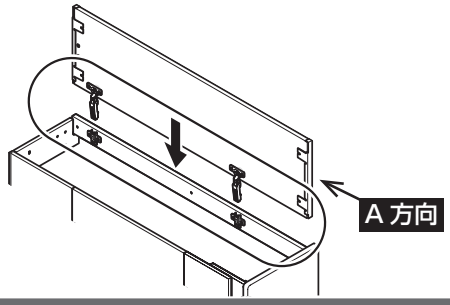
2 スライド丁番の取り付け

❶ 手締めで

皿タッピンねじ
3.5×14（左右各2本）

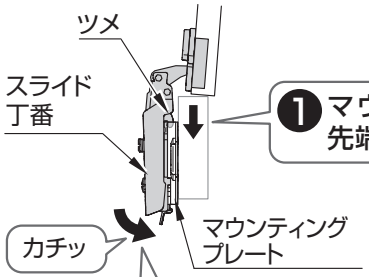


3 天板の取り付け



取り付けかた

【A方向から見た図】



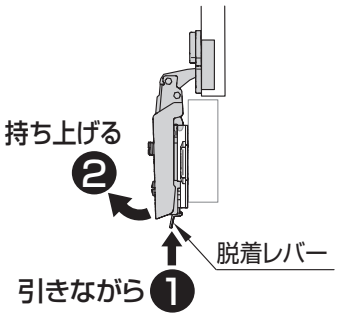
❶ マウンティングプレート先端にツメを引っ掛ける

❷ 押し下げる

スライド丁番本体がきちんとマウンティングプレートに装着されているか確認する

取り外しかた

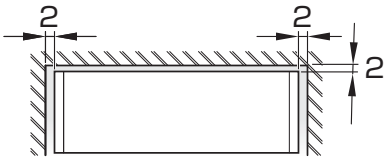
【A方向から見た図】



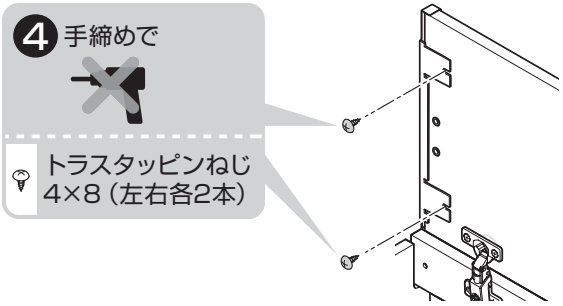
❸ すき間を調整する

天板の両端が壁をこすらないこと

【上面図】

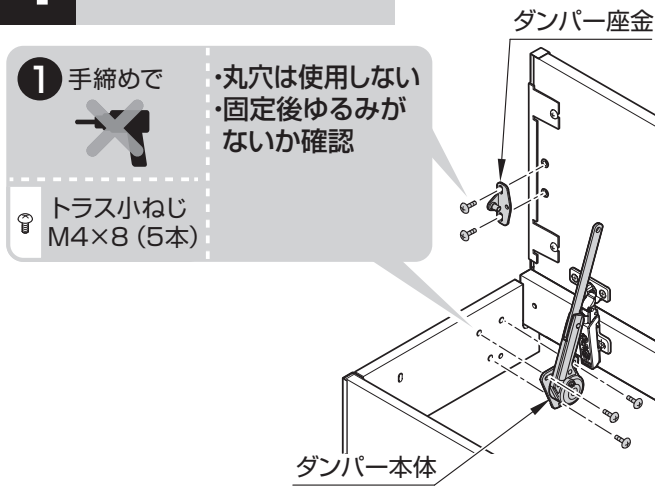


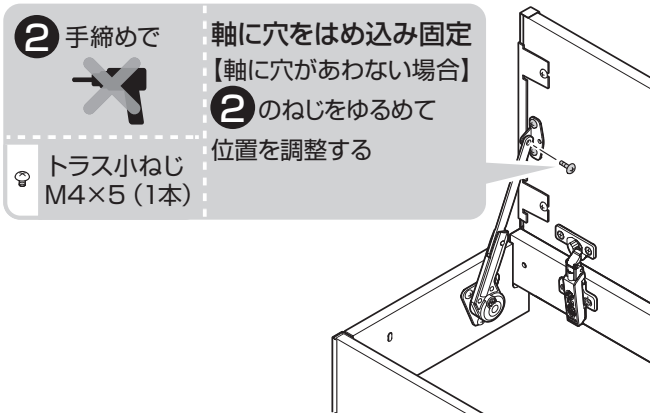
❹ 手締めで



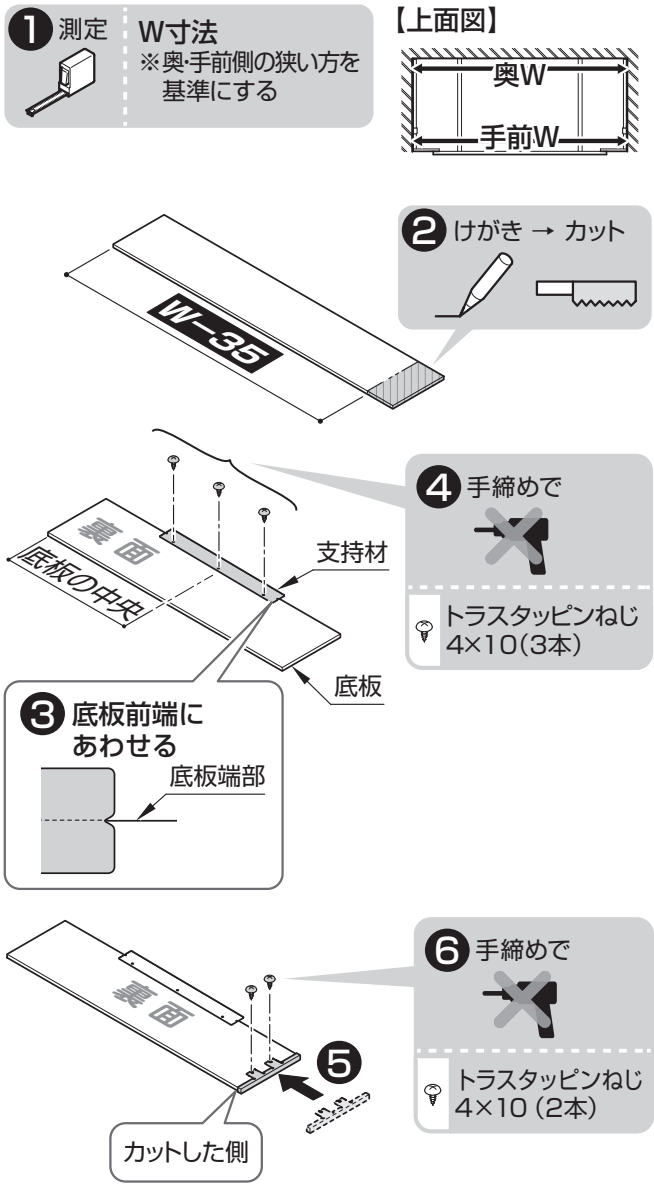
トラスタッピンねじ
4×8（左右各2本）

4 ダンパーの取り付け

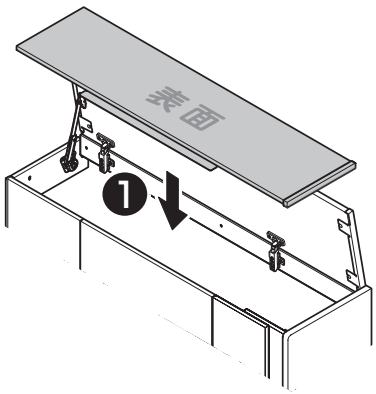




5 底板の加工



6 底板の取り付け



※底板にがたつきがある場合は底板下のアングル材で調整すること

☞ P.96 18.仕上げ へ

18. 仕上げ

扉の調整については下記URL内の「扉の調整」をご覧ください。
【URL】 https://jp.toto.com/support/repair/toilet/cabinet/rt_door05_mov/

使用部材

詰め合わせ箱

施工説明書	ハンドグリップ	タオル掛け
クッション材（2個）	（1箱）	【壁取付タイプ】（1箱）

コアキャビネット

コアキャビネット
引き出しラック（1台）

詰め合わせ箱（手洗器キャビネット用）

タオル掛け	紙巻器
【手洗器下取付タイプ】（1セット）	【メタル製】紙巻器本体（1個）、なべタッピンねじ 4×40(4本)

その他包装

カウンター	木製手すり	化粧鏡
付属材セット：座金組込化粧ねじ 4×12(3本)	（1箱）	（1箱）

MEMO

1 手洗器キャビネット扉の調整

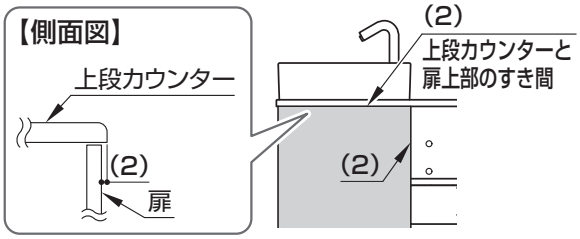
【扉を開けたとき、壁などに当たる場合】

クッション材

❶ クッション材をはり付ける
「施工説明書」同梱

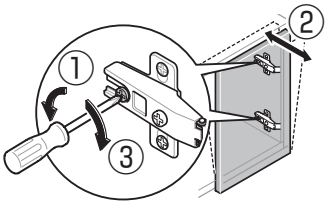
※はり付け面を水ぶきし、乾燥後はり付けてください。
※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

❷ 扉を調整する



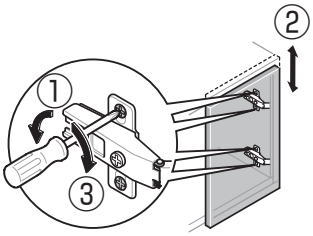
前後を調整（右開き）

①ゆるめる（左回し）
②扉を動かす
③締める（右回し）
※左開きも同様です。



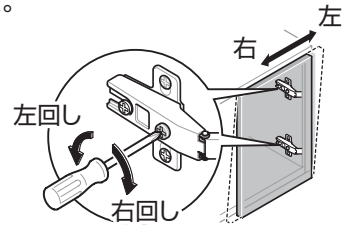
上下を調整（右開き）

①ゆるめる（左回し）
②扉を動かす
③締める（右回し）
※左開きも同様です。



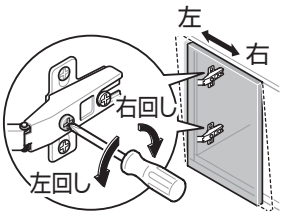
左右を調整（右開き）

ねじを回すと、扉が動く。



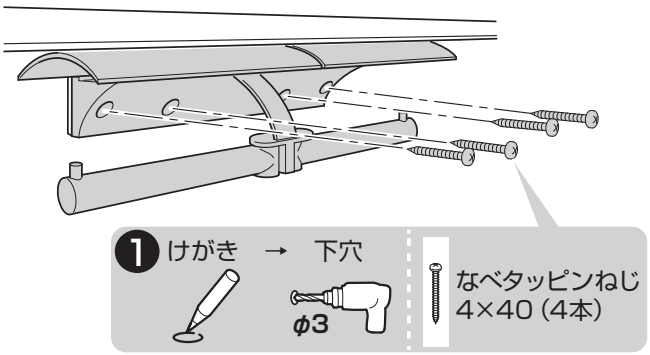
左右を調整（左開き）

ねじを回すと、扉が動く。

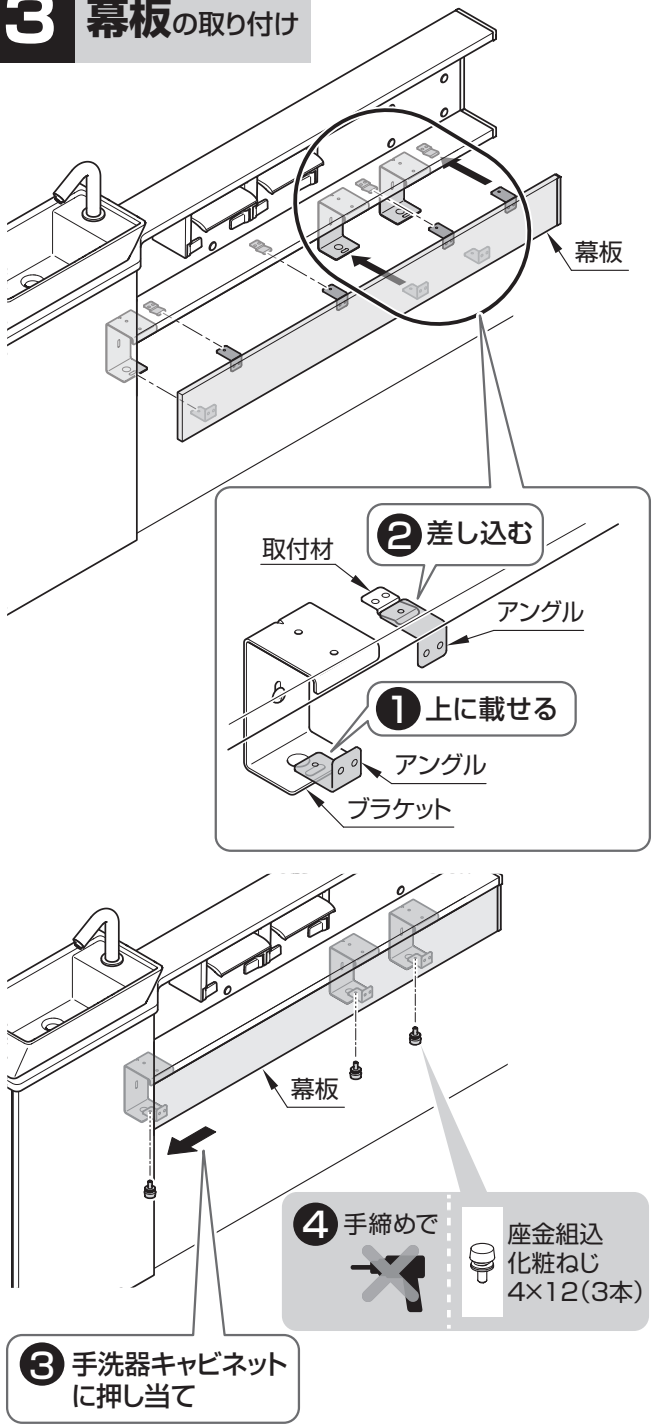


2 メタル製紙巻器の取り付け

樹脂製紙巻器の場合は 3 へ



3 幕板の取り付け



4 リモコン

❶ リモコンの取り付け　参照 ウォシュレット施工説明書

❷ リモコンの設定・作動確認　▶P.48 5 へ

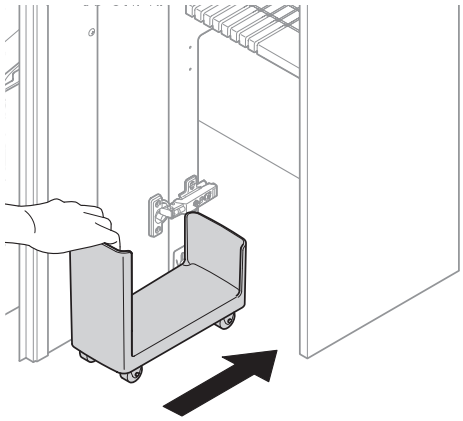
5 器具類の取り付け

【タオル掛け、化粧鏡、木製手すり、ハンドグリップを選択している場合】

参照 各商品に同封されている施工説明書

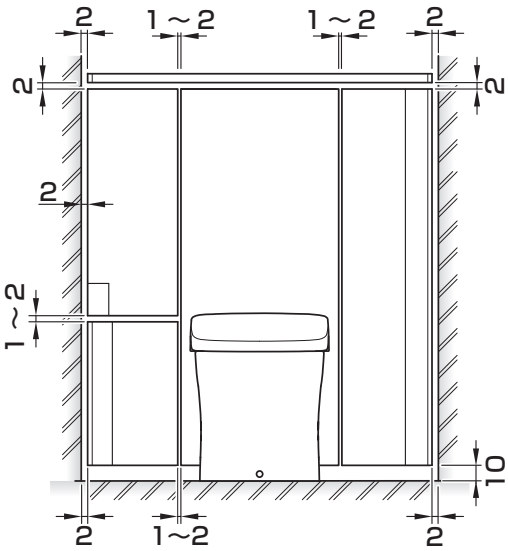
6 引き出しラック

大便器キャビネットの中に収納する

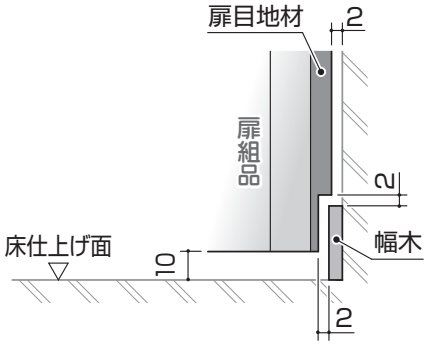


7 扉の本固定

仕上げ状態（目安）

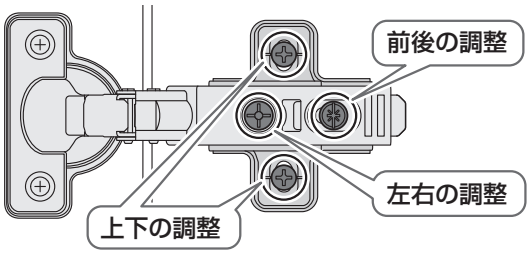


幅木がある場合

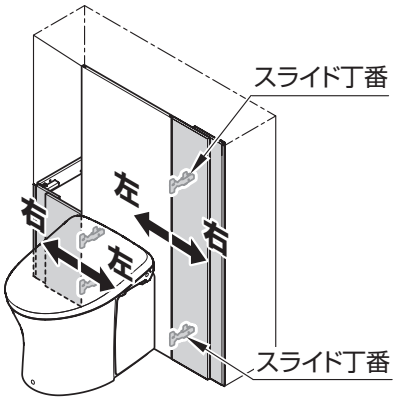


扉の調整

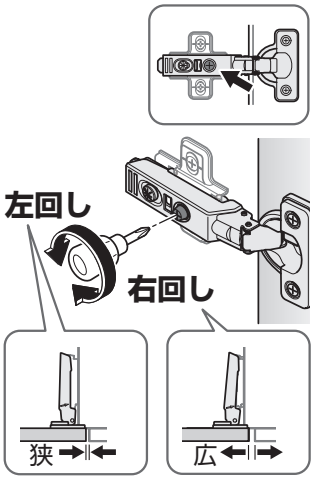
各ねじを調整することで扉を調整できます



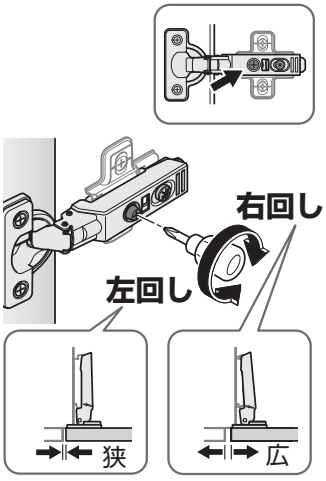
左右方向



【左扉】



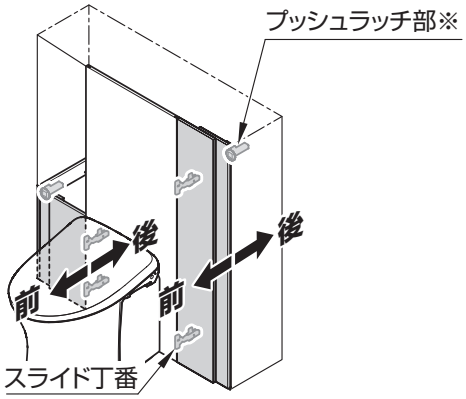
【右扉】



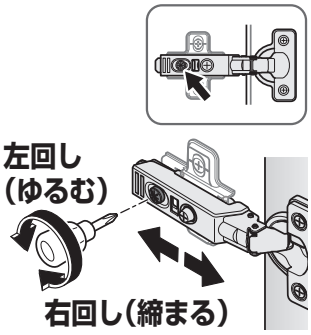
❶ 前後・上下方向の調整

ねじをゆるめ、扉を持って各方向にずらして位置を調整し、ねじを締めて固定してください。

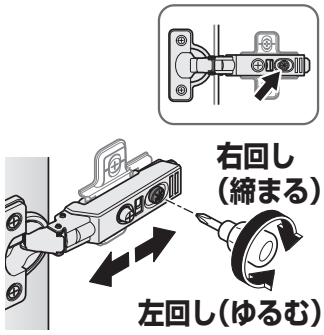
前後方向



【左扉】



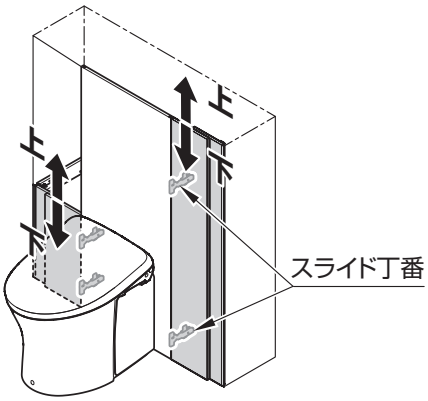
【右扉】



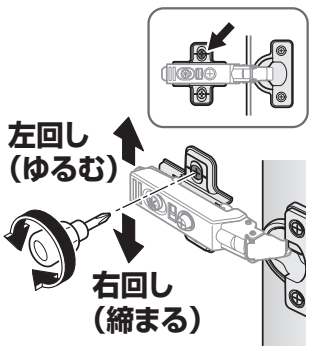
※プッシュラッチ部も前後調整できます。

上下方向

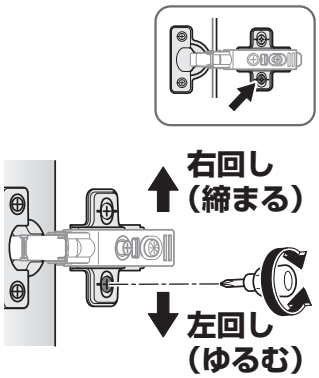
※扉の上下調整は上下2つのスライド丁番の移動方向にあわせること



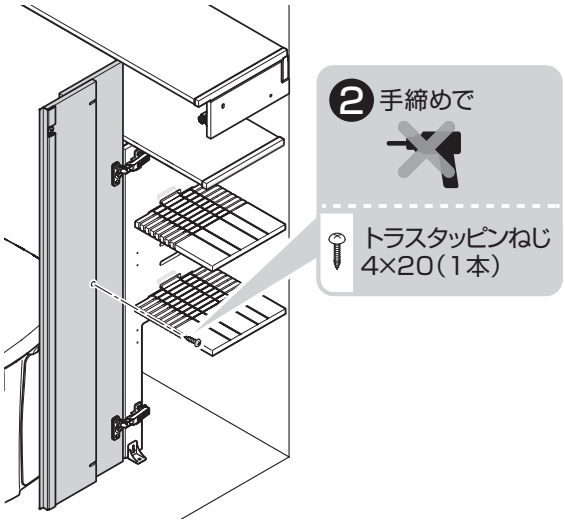
【左扉】



【右扉】



※扉の向きによって調整ねじ位置が変わります。



MEMO

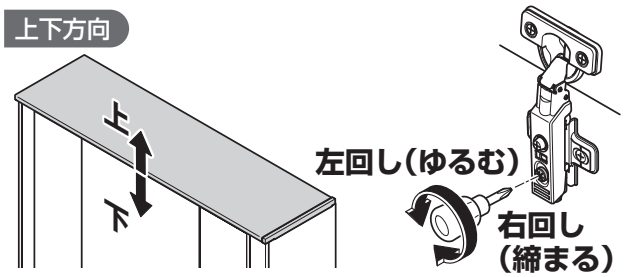
8 天板の調整

天板の調整

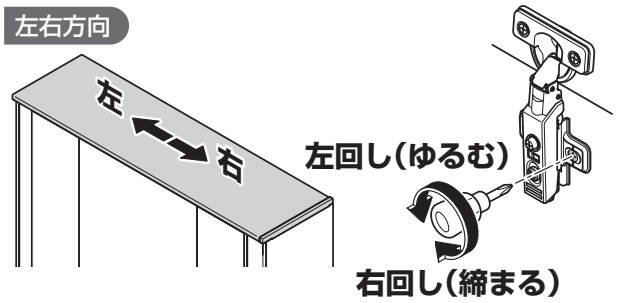
前後方向

上下・左右はねじをゆるめ、天板を持って各方向にずらして位置を調整し、ねじを締めて固定してください。

上下方向



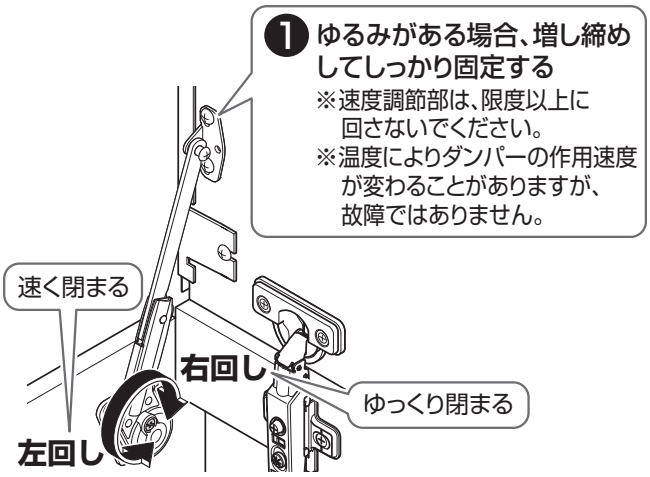
左右方向



閉まり速度調整

⚠注意

禁止	**調整時に弱めすぎない** 天板が速く閉まり、けがの原因となります。
	分解、改造をしない 器具が破損し、けがの原因となります。



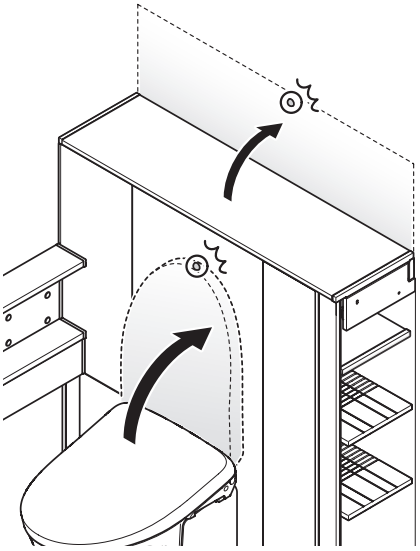
9 クッション材のはり付け

【天板・便ふたを開けたとき、壁などに当たる場合】

クッション材

❶ **クッション材をはり付ける**
「施工説明書」
「ウォシュレット」同梱
天板上面・便ふた

※はり付け面を水ぶきし、乾燥後はり付けてください。
※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。



10 シリコーン系シール材の塗布

手洗器

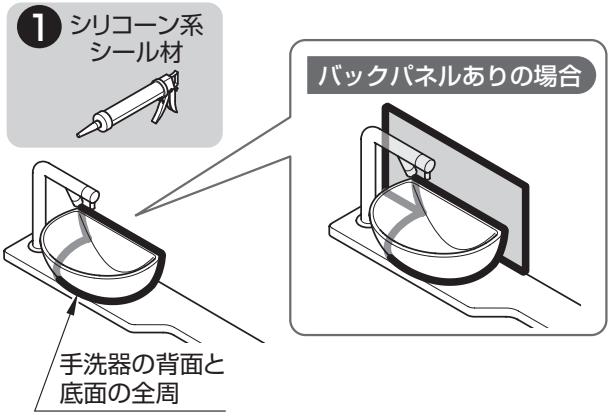
⚠警告

必ず守る

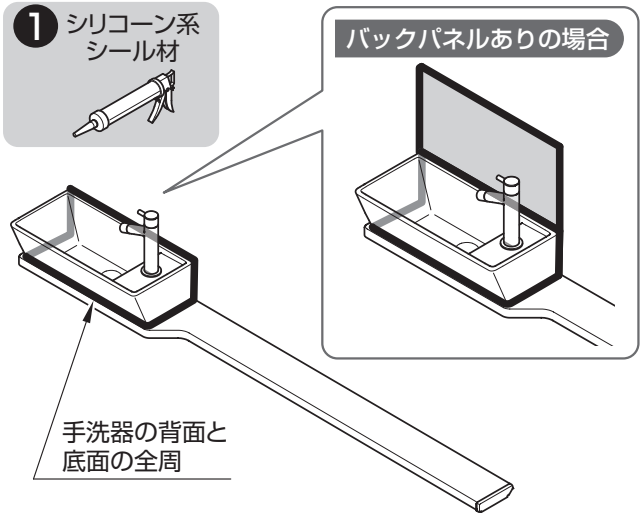
シリコーン系シール材の塗布（コーキング）は確実に行う
水などがキャビネット内に浸入してコンセントにかかり、火災や感電の原因となります。

※防カビ性の透明シリコーン系シール材（別途手配）
※ジョイントコークなどの水溶性のコーキングは使用しないでください。

ベッセルタイプ（丸形）



ベッセルタイプ（角形）

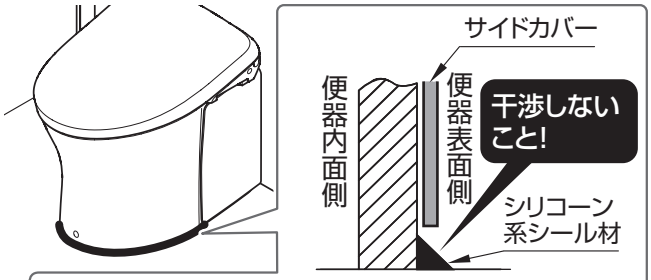


ハイバックタイプ

※手洗器・キャビネット周辺のシリコーン系シール材は不要です。

大便器

水や小水の浸入を防止するため、便器床接地部周囲に防カビ性の透明シリコーン系シール材（別途手配）を塗布することをおすすめします。

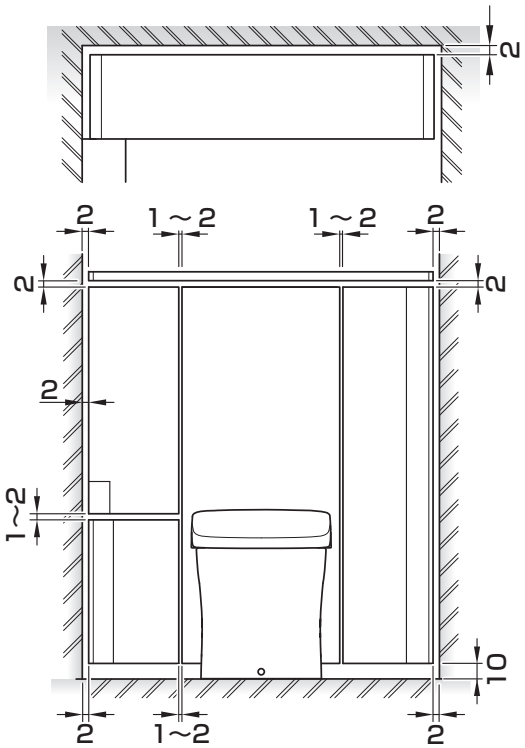


※塗布したシリコーン系シール材がサイドカバーに当たらないよう注意する
シリコーン系シール材にサイドカバーが干渉するとサイドカバーが取り付けできなくなるおそれがあります。

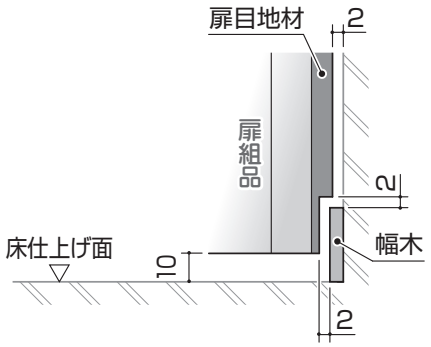
MEMO

11 仕上げ状態の確認

仕上げ状態（目安）



幅木がある場合



MEMO

MEMO